

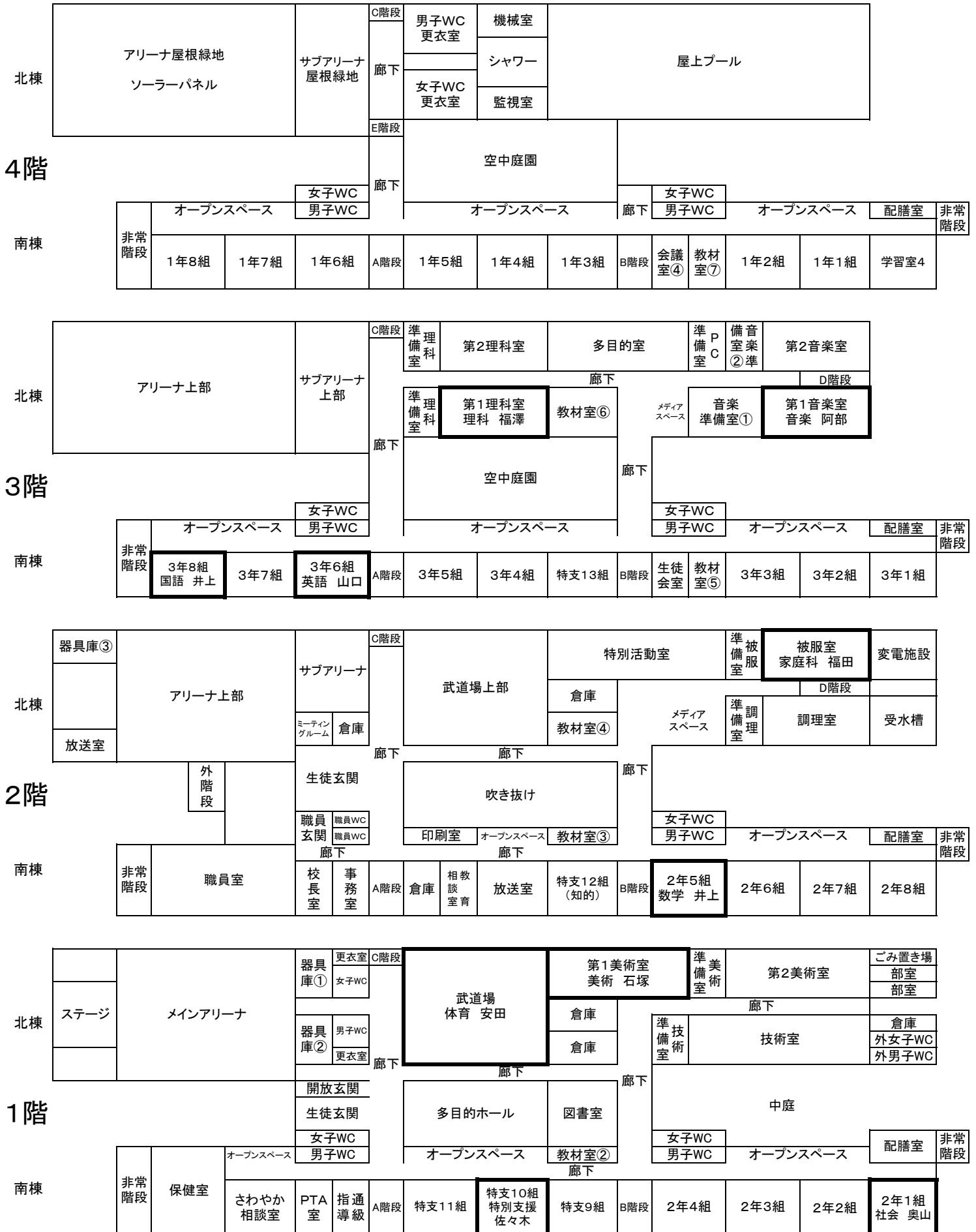
# 指 導 案 綴 り

「学校 ICT を活用し、  
主体的に学習に取り組む生徒の育成」



朝霞市立朝霞第一中学校

# 公開授業教室配置図



### 第3学年8組国語科学習指導案

期 日 令和6年11月7日(木) 5校時

生徒数 36名

授業者 井上 春菜

#### 1 単元名 「初恋」 島崎 藤村 (中学国語3 教育出版)

#### 2 単元について

##### (1) 教材観

本教材は、中学校の教科書の中では数少ない文語で書かれた詩である。教材の多くが口語で書かれているため、この教材は文語に触れる機会として非常に重要である。また、本教材は七五調の定型詩であるため、リズム良く読むことができる。音読を通して定型詩独特のリズムを体感できる。

リズム良く音読の回数を重ねたのちに、その意味を考えること、短い言葉に込められた情景や心情を感じ取ること、単純な言葉の一つひとつを捉え、そこから登場人物の心情や位置関係すらも把握することが必要になる。さらに、「初恋」という身近なテーマは生徒にとって非常に親しみやすいと考えられる。生徒の思いと詩で描かれている思いを比較することもできる。そうすることで、本文の表面的な読みだけではなく、自分たちの思いや経験と比較することで、詩の読みを深化させることができるであろう。

##### (2) 生徒観

本学級の生徒は、今までに「河童と蛙」、「虹の足」などの詩を学習してきたが、今回のような文語で書かれた詩は初めてである。文語ということで苦手意識を持つことが予測される。

また、情緒豊かな内容を、深く読み味わうことも得意ではない。表記されていることには目が向くが、そこに秘められている深い思いを捉えることを苦手としている。

しかしながら、「初恋」という身近なタイトルから、興味を持って授業に臨める生徒も多いのではないかと考えられる。生徒がその興味をいかに持続しながら授業に臨んでいけるかが課題である。

##### (3) 指導観

中学3年生の秋に行う単元なので、高校受験を意識している。意味の分からない古語が含まれていても、初めて読む題材を解釈する力を育成するため、インターネットや古語辞典の使用をせずに、自分たちで詩全体を解釈して考える活動を取り入れている。また、グループの答えが出たあと、なぜそう思ったのかの理由や根拠を明確にさせることで、意見を深めさせたい。

さらに、二人の距離感や二人の心情を具体的に本文の言葉一つひとつから考えさせることで、深く読み味わうことを心がけさせるようにしたい。班活動を取り入れることによって、各自の読みでは捉えることができなかった読みができるよう指導していく。

### 3 研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT 活用場面 1

参考資料や既習事項を大型モニターに提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)

生徒の興味関心が沸くような本時の学習事項に関わる教材を提示し、本時の学習への意欲付けをし、学習課題を確認する。

#### ICT 活用場面 2・3

ホワイトボードアプリで意見の共有・集約をする。(C2)

タブレット端末上で意見の伝達・共有を行うことで、遠隔でジクソー学習を行うことができる。重要な箇所を説明する際には、その部分を拡大しながら説明したり、タッチペンでアンダーラインを引いたりなど、生徒自身が工夫して操作するようにする。

### 4 単元の指導計画と評価

#### (1) 単元の目標

- 文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。〈知識及び技能〉【(1)ウ】
- 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方などを評価することができる。〈思考・判断・表現〉【C(1)ウ】
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)ウ】	・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方などを評価している。【C(1)ウ】	粘り強く文章の種類や構成について理解し、詩に込められた作者の思いについて考えたことを説明しようとしている。

(3) 単元の指導と評価の計画(全2時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。</li> <li>○詩の表現について学習する。</li> <li>○表現上の工夫や特徴を捉えたうえで、音読する。</li> <li>○詩を読み、構成を簡潔に学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現の効果</li> <li>○表現の仕方・工夫</li> <li>○詩の展開・構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項について確認する。</li> <li>○詩の登場人物や構成を捉えさせ、次時へ繋げる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能】</p> <p>ワークシート</p> <p>・ここでは、既習事項を基に詩の表現技法や特徴が理解できているか確認する。</p> </div>
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○詩を読み、</li> <li>○詩の構成をもとに、「初恋」は成就したかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容の解釈</li> <li>○表現や描写と心情の結びつけ</li> <li>○描写を根拠にした読み方</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>ワークシート・タブレット</p> <p>・ここでは、詩の表現から情景を想起し、心情を考え、自分の言葉でまとめられているかを確認する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>ワークシート・観察</p> <p>・ここでは、課題解決に向けてグループの生徒と積極的に話し合い、話し合う中で気づいたことをワークシートに加筆しているかを確認する。</p> </div>

5 本時の指導計画（本時2／2時間）

(1) 本時のねらい

- ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方などを評価している。〈思考・判断・表現〉【C(1)ウ】
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点	◇ICT活用場面	●評価基準【観点】
導 入 5 分	(1)前時までの学習を振り返り、本時の課題・流れを確認する。		◇ICT活用場面 1	
			参考資料や既習事項を大型モニターに提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)	
	課題 詩の構成をもとに、「初恋」は実ったか、実っていないかを考える			

<p>展開 4 0 分</p>	<p>(2)四人グループを作り、一連につき一人担当を決める。(3分)</p> <p>(3)担当の連の口語訳を考え、タブレット(ホワイトボードアプリ)に打ち込む。(7分)</p> <p>(4)同じ担当者の意見を参考にしながら、個人で口語訳をまとめる。(5分)</p> <p>(5)四人グループで、各連の口語訳を発表し、共有する。(5分)</p> <p>(6)四人グループで、詩全体を読み解き、「初恋は実った」「初恋は実らなかった」のどちらかを選択する。(10分)</p> <p>(7)各グループの意見を共有し、課題の答えを提示する。(10分)</p>	<p>◇ICT活用場面2</p> <p>ホワイトボードアプリに意見を打ち込み共有する。(C2)</p> <p>○ウェブ検索や、辞典は使わず、自分の考え、学び合いで解釈するように説明する。</p> <p>○机間指導をし、まとめられない生徒に助言する。</p> <p>●評価基準【思考・判断・表現】</p> <p>ワークシート・タブレット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ここでは、詩の表現から情景を想起し、心情を考え、自分の言葉でまとめられているかを確認する。</li> <li>(「努力を要する」状況(C)への手立て)</li> <li>参考にする意見を一緒に選択し、口語訳の書き方を支援する。</li> </ul> <p>◇ICT活用場面3</p> <p>班ごとにホワイトボードアプリで意見の共有・集約をする。(C2)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ここでは、課題解決に向けてグループの生徒と積極的に話し合い、話し合う中で気づいたことをワークシートに加筆しているかを確認する。</li> <li>(「努力を要する」状況(C)への手立て)</li> <li>検討する内容を整理させ、なぜそう考えるか明確にさせる。</li> </ul>
<p>終末 5 分</p>	<p>(8)本時のまとめをする</p> <p>(9)学習の振り返りをする</p>	<p>○授業内で気づいたこと、新たに分かったこと、疑問点などを記入させる。</p>

## 第2学年1組社会科学学習指導案

期 日 令和6年11月7日(木) 5校時

生徒数 37名

授業者 教諭 奥山 真衣

### 1 単元名 2節 欧米の進出と日本の開国(第5章 開国と近代日本の歩み)

#### 2 単元について

##### (1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領歴史的分野の内容(1)「近代の日本と世界」の中項目C「近現代の日本と世界」の小項目(ア)「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を扱う。

ここでは、①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したこと②工業化の進展と政治や社会の変化③近代化がもたらした文化への影響④世界の動きと我が国との関連、などについて理解し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを主なねらいとしている。

そこで「欧米とアジアの関係が変化する中、なぜ江戸幕府は滅んだのだろうか。」という単元を貫く課題を設定し、欧米諸国における近代国家の成立の様子、欧米諸国のアジア進出という視点からその影響を日本がどう受けたのかを多面的・多角的に追究していく。

##### (2) 生徒観

本学級は、積極的に挙手をして発言するなど、意欲的に授業に取り組む生徒が多い。しかしながら問題文が何を聞いているのかについては読み取れるものの、それを自分の言葉でどのように表現すればよいか分からない生徒が少なくないことが、本学級の現状である。

##### (3) 指導観

今年度は学年の社会科担当2人で、奇数クラスと偶数クラスを入れ替わりながら全クラスを担当している。また、毎単元出している単元を貫く課題に対するレポートではルーブリック評価を取り入れている。生徒と評価基準を共有し、評価を可視化することで生徒のモチベーション向上に努めるとともに、何がどのように評価されたのかをクリアにしている。

今回の単元を貫く課題を「欧米とアジアの関係が変化する中、なぜ江戸幕府は滅んだのだろうか。」と設定し、本単元における全体の学習を通して、開国までに至る江戸幕府の対応とその影響について、生徒自身の言葉で表現させたい。深い学びにつなげるためには、まずは主体的に学ぶ姿勢を引き出すことが不可欠であると考えます。

そこで本時の授業では「開国によって、日本の社会はどのような影響を受けたのか考えよう。」という課題に対して、知識構成型ジグソー法の手法を参考に複数の資料を用意し、それを用いて課題解決を図っていく。視点を①貿易の開始②幕府③反幕府の3点に絞り、そこから本時の課題を捉えさせ、開国による影響について考えを深めさせたい。

まず、課題に対する意見を生徒一人一人に考えさせる。次にエキスパート活動では、資料の読み取りや考察をさせる。資料の読み取りや考察を苦手とする生徒に対しては机間指導を行い、ヒントの提示やアドバイスをしながら支援していく。ジグソー活動では、エキスパート活動で得た情報を自分の言葉で発表し合い、意見を共有させ、課題に対する考えを自分の言葉で表現させる。

クロストークでは何名かの生徒に課題に対する考えを発表させる。多面的・多角的な考察から得られた成果を、他者の発表を聞くことによって、生徒自身に自分の考えの変容や深まりを実感させる。

### 3 研究主題との関わり

研究主題 学校ICTを活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT活用場面1

大型モニターとプレゼンテーションソフトで学習課題・資料を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)

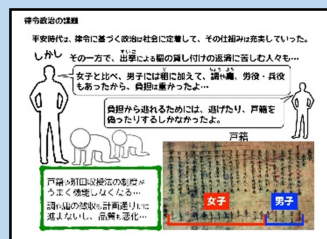
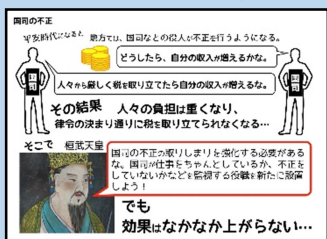
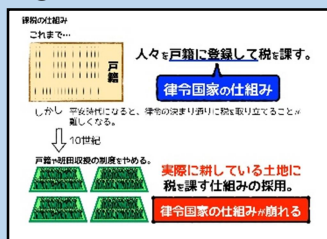
学習課題・資料の提示を、拡大等を活用して分かりやすく説明することにより、生徒の興味・関心を高めることができる。

#### ICT活用場面2

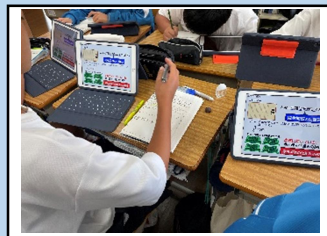
クラウド上に保存した資料を、それぞれがタブレット端末を活用して他者に情報伝達・情報共有をすることで、生徒同士のコミュニケーションを活発にする。(C2)

かつては印刷した資料を活用してジグソー学習を行っていた。しかし、タブレット端末上で資料の伝達・共有を行うことで、学校ICTを活用したプレゼンテーション能力の向上や資料活用能力の向上につながる。重要な箇所を説明する際には、その部分を拡大しながら説明したり、タッチペンでアンダーラインを引いたりなど、生徒自身が工夫して操作するようにする。

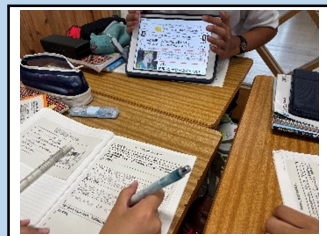
#### ① あらかじめ、クラウド上に資料を入れておく。(資料の一例)



#### ② 同じ資料を担当した者同士のグループで情報共有。(エキスパート活動)



#### ③ タブレット端末を活用して、他者に自分の担当した資料について説明、情報共有。(ジグソー活動)



#### ICT活用場面3

代表生徒の学習課題に対する自分の考えをコミュニケーションアプリを用いて学級全体に投稿して共有することで、生徒に自分自身の考えの変容や深まりを実感させる。(C1)

代表生徒の考えを学級全体で一斉に提示することにより、課題解決に必要な情報を効果的・効率的に共有することができる。また、発表を通じた新たな表現や考えへの気付きにもつながる。



#### 4 単元の指導計画と評価

##### (1) 単元の目標

- ・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。【知識及び技能】
- ・欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響について、資料の読み取りや協働的な学習を通して考察し、それを自分の言葉で表現する。  
【思考力、判断力、表現力等】
- ・欧米諸国とアジア諸国との関係変化について、開国とその影響を現代の政治とのつながりを視野に関連付けながら主体的に社会に関わろうとする。【学びに向かう力、人間性等】

##### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。	・欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響について、資料の読み取りや協働的な学習を通して考察し、それを自分の言葉で表現している。	・単元の学習をもとに、市民革命について、政治体制の変化や現代の政治とのつながりを視野に関連付けながら主体的に社会に関わろうとしている。

##### (3) 単元の指導と評価計画

(●「学習改善につなげる評価」 ○評定に用いる評価)

次	学習活動等	評価の観点			評価規準 (評価方法)
		知	思	態	
1	<p><b>【単元を貫く課題】</b> 「欧米とアジアの関係が変化する中、なぜ江戸幕府は滅んだのだろうか。」</p> <p>・これまでの学習や小学校の学習を踏まえ、単元を貫く課題に対して考察し、「学びの軌跡」に記入する。</p>			●	●小学校での学習などを基に、単元を貫く課題に対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。(学びの軌跡)
	<p><b>【ねらい】</b> 欧米諸国とアジア諸国の関係変化を基に、開国とその影響について多面的・多角的に考察させる。</p> <p><b>第1時の課題</b> 「欧米諸国の来航は、アジアにどのような影響を与えたのか考えよう。」</p> <p>・ヨーロッパはアジアに対して軍事的に優勢になり、戦争によって相手を従わせ、支配することが可能になったことについて資料を活用して考察する。</p>			●	●第1時の課題について、欧米諸国の来航の影響について考察したことを適切に表現している。(学びの軌跡)

2	<p><b>第2時の課題</b></p> <p>「江戸幕府は開国し、欧米諸国とどのような外交関係を結んだのか読み取ろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幕府の対応を通して、日本が開国するまでの経緯を複数の資料から読み取り、まとめる。</li> </ul>	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第2時の課題について、日本の開国までの経緯について読み取ったことを適切にまとめている。(学びの軌跡)</li> </ul>
3 (本時)	<p><b>第3時の課題</b></p> <p>「開国によって、日本の社会はどのような影響を受けたのか考えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識構成型ジグソー法の手法を使い、①貿易の開始②幕府③反幕府の3つの観点から開国の影響を活用して考察する。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題について、資料の読み取りや協働的な学習を通して考察し、その過程や結果を適切に自分の言葉で表現している。(ノート)</li> <li>●単元での学習をもとに、日本の開国による国内の影響から、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究している。(学びの軌跡)</li> </ul>
4	<p><b>第4時の課題</b></p> <p>「開国によって、日本の社会はどのような影響を受けたのかまとめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経済的影響や江戸幕府への不満など、開国による国内の混乱について整理してまとめる。</li> </ul>	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第4時の課題について、日本の開国までの経緯について整理して適切にまとめている。(学びの軌跡)</li> </ul>
5	<p><b>第5時の課題</b></p> <p>「長州藩と薩摩藩は、どのように討幕運動を進めたのかまとめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開国後の幕府政策の転換を複数の資料から読み取り、討幕運動とその後の幕府の動きについて整理してまとめる。</li> <li>欧米諸国とアジア諸国との関係変化、開国とその影響について振り返り、社会や経済が影響を受けたきっかけに着目して、江戸幕府が減んだ原因について自分の考えを「学びの軌跡」にまとめる。</li> </ul>	●	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第5時の課題について、開国後の幕府政策の転換、討幕運動と幕府の動きについて整理して適切にまとめている。(学びの軌跡)</li> <li>○単元を貫く課題について、習得した知識を活用して、多面的・多角的に考察して、表現している。(学びの軌跡)</li> </ul>

## ルーブリック（単元を貫く課題）

評価項目規準	A	B	C
「欧米とアジアの関係が変化中、なぜ江戸幕府は滅んだのだろうか。」について、習得した知識を活用して、多面的・多角的に考察して、表現しているか。 (思考・判断・表現)	欧米とアジアの関係変化による幕府の政治や経済が大きな影響を受けたきっかけについて触れながら、それにより人々の生活や考えはどう変化したのかを結び付けて多面的に考察して書かれている。	欧米とアジアの関係変化による幕府の政治や経済が大きな影響を受けたきっかけについて書かれている。	課題に正対していない。 記述内容が不十分。

### 5 本時の指導計画

#### (1) 本時の目標

- ・「開国によって、日本の社会はどのような影響を受けたのか」について、資料の読み取りや協働的な学習を通して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に自分の言葉で表現する。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・単元での学習をもとに、日本の開国による国内の影響から、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究している。

【学びに向かう力、人間性等】

#### (2) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点 ◇ICT活用場面</li> <li>●「学習改善につなげる評価」【観点】</li> <li>○評定に用いる評価【観点】</li> </ul>
導入 (5分)	<p><b>1 前時の学習の確認をする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「開国によって、日本の社会はどのような影響を受けたのか」という学習課題に対して、前時に記入した自分の考えを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題を確認させる。</li> </ul> <p>◇ICT活用場面1</p> <p>大型モニターとプレゼンテーションソフトで学習課題・資料を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)</p>
展開 (40分)	<p><b>2 エキスパート活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①貿易の開始②幕府③反幕府の3種類の資料のうちの1つを受け取り、読み取れることや分かることをプリントに記入する。(4分)</li> <li>・5、6人組のグループごとに、各自のエキスパート活動の内容について意見を交換・共有し合い、活動をさらに深める。(3分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各個人にエキスパートとしての責任をもたせる。</li> <li>・資料の読み取りや考察を苦手とする生徒に対しては机間指導を行い、ヒントの提示やアドバイスをしながら支援していく。</li> <li>・他の人が発表した内容と異なる視点からや、付け足しになるように意見を発表させる。</li> </ul>

本時の課題：開国によって、日本の社会はどのような影響を受けたのか考えよう。

<p><b>3 ジグソー活動（3、4人グループ）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート活動での情報を発表し、意見の共有を行い、それをプリントに記入する。（8分）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー活動を通して、分かったことや課題に対する考えをまとめる。（15分）</li> </ul>	<p><b>ICT活用場面2</b></p> <p>クラウド上に保存した資料を、それぞれがタブレット端末を活用して他者に情報伝達・情報共有をすることで、生徒同士のコミュニケーションを活発にする。（C→B）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な箇所を説明する際には、その部分を拡大しながら説明したり、タッチペンでアンダーラインを引いたりなど、他者に伝わりやすいような発表をさせる。</li> <li>・資料を写すのではなく、他者の発表を聞いて、それを自分の言葉で記入するように指導する。</li> <li>・80字以上100字以内でまとめられるように、一文は短く、接続詞でつなげる。最後は、「つまり～」の形で本時の課題に正対するように書かせる。</li> </ul> <p>○学習課題について、資料の読み取りや協働的な学習を通して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に自分の言葉で表現する。【思考・判断・表現】</p> <p>[評価規準 C→Bへの手立て] 単語や箇条書きなど、分かったことをプリントに記入するように促す。</p> <p>[評価規準 B→Aへの手立て] 開国が原因で起こった国内の問題点を捉えさせる。それによって日本国内がどういう状態に陥ってしまったのかを端的にまとめさせる。</p>
<p>A評価の例（100字）</p> <p>日本は物価上昇し混乱。反幕府、尊王攘夷運動も加速したが、幕府は厳しい処罰。その結果反発が激化し、幕府は権威失墜したため政策転換。</p> <p>つまり開国によって、日本の社会は物価上昇、幕府の信頼低下を引き起こした。</p>	
<p><b>4 クロストーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー活動を通して考えた学習課題に対する答えを発表し、意見を全体で共有する。（10分）</li> </ul>	<p><b>ICT活用場面3</b></p> <p>代表生徒の学習課題に対する自分の考えをコミュニケーションアプリを用いて学級全体に投稿して共有することで、生徒に自分自身の考えの変容や深まりを実感させる。（C1）</p>

<p>終末 (5分)</p>	<p>5 次回の授業の説明を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「開国によって、日本の社会はどのような影響を受けたのか。」について、ノートにまとめる作業を行う話を聞く。</li> <li>・学びの軌跡を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業についての補足をする。</li> </ul> <p>●単元での学習をもとに、日本の開国による国内の影響から、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>
--------------------	--	--

(3) 板書計画

<p>ねらい</p>	<p>開国によって、日本の社会はどのような影響を受けたのか考えよう。</p>
------------	--

## 第2学年5組数学科学習指導案

期 日 令和6年 11月 7日(木) 5校時  
生徒数 男子 19名 女子 18名 計37名  
授業者 井上 雄介

### 1. 単元名 「三角形と四角形」

### 2. 単元について

#### (1) 教材観

第1学年では、図形の作図や移動を学習している。また、空間における直線や面の位置関係を知り、空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されているものと捉えたり、平面上に表現したり読み取ったりしている。さらに、おうぎ形の弧の長さや面積、基本的な柱体、錐体及び球の表面積と体積が求められるようにしている。

また、平行線や角の性質、多角形の内角と外角、図形の合同について観察や作図等の操作や実験などの活動を通して、その推論の過程を他者に伝わるように表現する学習をしている。

本単元では、平行線の性質や三角形の合同条件などを基にして、演繹的に推理することによって三角形や平行四辺形の基本的な性質や条件について考察し、図形についての理解を深めるとともに、論理的に確かめ表現する力を養う。

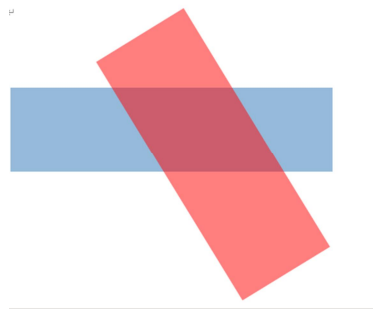
#### (2) 本時の研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT 活用場面 1

Word を用いた図形の教材を用意し、生徒が直感的に考えられるようにする。(B3)

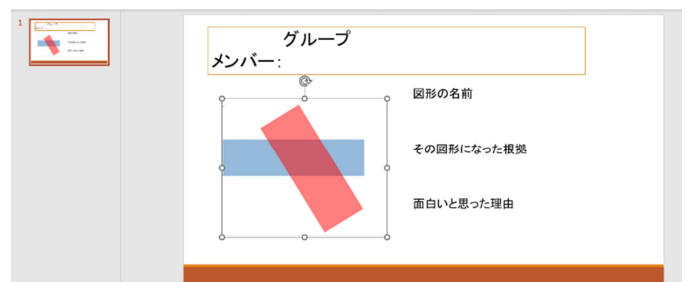
個人ごとに教材を Word で配布し、右記の長方形を自由に動かせるようにする。幅を広げる、図形の大きさを変えるなど、iPad 上で思考の幅を広げることができると共に、試行錯誤しながら動かすことができるため、与えられた課題を直感的に考えることができる。



#### ICT 活用場面 2

パワーポイント等で、わかりやすくほかの班に伝えられるようにする。(C1)

視覚的に他者へ伝わりやすくするために、パワーポイント等のプレゼンテーション用ソフトを用いる。また、共有機能を使用しすべての班がどのように考えたのかが見えるようにすることで、様々な見方・考え方を働かすことができる。



### 3. 単元目標

- (1) 三角形や四角形の数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。
- (2) 数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができる。
- (3) 三角形や四角形について、数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身につける。

### 4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 証明の必要性と意味及びその方法について理解している。 ② 定義や命題の仮定と結論、逆の意味を理解している。 ③ 反例の意味を理解している。 ④ 正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。	① 三角形の合同条件などをもとにして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ② 証明を読んで新たな性質を見だし、表現することができる。 ③ 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを活用して具体的な事象を考察し、表現することができる。 ④ ことがらが正しくないことを証明するために、反例をあげることができる。	① 証明の必要性と意味及びその方法を考えようとしている。 ② 平面図形の性質や図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

### 5. 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① (本時)	・ 2本の棒を重ねる活動を通して、図形の定義の意味を理解することができる。	◇知① (行動観察)		
2	・ 二等辺三角形の底角の性質を証明することができる。		◇思① (行動観察)	
3	・ 二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を見いだすことができる。また、正三角形の性質を証明することができる。	◇知① (行動観察)	◇思② (行動観察)	
4	・ 二等辺三角形になるための条件を論理的に確かめることができる。また、二等辺三角形		◇思③ (行動観察)	◇主① (行動観察)

	になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。			
5	・二等辺三角形の底角の性質と二等辺三角形になるための条件を比べる。			◇主② (行動観察)
6	・ことがらの逆と反例の意味を理解する。	◇知② (行動観察)		
7	・直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとにして考え、説明することができる。		○思① (ノート)	
8	・直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明することができる。		○思③ (行動観察)	
9	・平行四辺形の定義と性質を理解する。	◇知① (行動観察)		
10	・平行四辺形の性質を証明することができる。		○思① (ノート)	
11	・平行四辺形の性質を利用して、図形の性質を証明することができる。		○思③ (ノート)	
12	・具体的な事象を考察することを通して、平行四辺形になるための条件を証明することができる。		○思① (ノート)	◇主③ (行動観察)
13	・平行四辺形の性質の逆を証明することを通して、平行四辺形になるための条件を見いだすことができる。		○思① (行動観察)	
14	・平行四辺形になるための条件を証明することができる			◇主② (ノート)
15	・平行四辺形になるための条件を利用して図形の性質を証明したり、その証明を振り返って統合的・発展的に考えたりすることができる。		○思③ (行動観察)	◇主③ (行動観察)
16	・長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解する。	◇知④ (行動観察)		
17	・長方形やひし形の対角線の性質を証明することができる。		○思③ (ノート)	



	また、その性質の逆が正しくないことを、反例をあげて示すことができる。			
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の内容を活用して、図形の性質を見だし証明したり、問題の条件を変えて統合的・発展的に考えたりすることができる。</li> </ul>		◇思③ (行動観察)	◇主② (行動観察)
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行線の性質を利用して、図形を等積変形することができる。</li> </ul>		◇思③ (行動観察)	
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を確認する。(単元テスト)</li> </ul>	○知②③④ (単元テスト)	○思②③④ (単元テスト)	

## 6. 本時の指導計画

### (1) 本時のねらい

2本の棒を重ねる活動を通して、図形の定義の意味を理解することができる。〈知識・技能〉

### (2) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	教師の発問 (◎) 予想される生徒の反応 (・) ICT 活用場面 (◇)	指導に生かす評価 (□) 記録し指導に生かす評価 (■) 支援 (⇒) 指導上の留意点 (○)
導入 5分	(1)AI ドリルにて個人で演習を行う。  (2)本時の課題を確認する。	◇自動で採点される AI ドリルを活用し、各自のレベルにあった問題を選択しながら実施する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     課題 2本のテープを重ねると…？                 </div>			
展開 40分	(1) 違う色のついたテープをそれぞれ1本ずつ用意し、配布する。  <div style="background-color: #ADD8E6; padding: 5px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;">                     Word を用いた図形の教材を用意し、生徒が直感的に考えられるようにする。(B3)                 </div> (2) それぞれのテープを重ね、重なったところにはどのような図形が出来るのか考える。  (3) 3~4人のグループになり、それぞれどのように重ねたのか確認して、面白い重ね方を1つ決め、発表の用意をする。  <div style="background-color: #ADD8E6; padding: 5px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;">                     パワーポイント等で、わかりやすくほかの班に伝えられるようにする。(C1)                 </div>	◇word で用意し、複製保存させる。(B3)  ◇幅や大きさなど、考えを広げられるようにしていく。 ・幅を一定にして重ねると長方形になる。 ・端をうまく重ねて直角三角形ができる。 ・幅が違うものを重ねて、平行四辺形ができる。  ◇パワーポイントで、以下の点をわかりやすくほかの班に伝えられるようにする。(C1) ①どのような図形になったか ②その図形になった根拠はなにか ③なぜその重ね方が面白いと思ったのか ・幅が同じ長方形を重ねる →ひし形ができる。	⇒机間指導をし、複製保存ができていないか確認する。  ○なぜその図形になったのか、根拠も含めて考えさせるように指導する。  ○パワーポイント上には、どのようにまとめればよいのか、事前にフォーマットを用意する。 ○机間指導しながら、パワーポイントでまとめる点を整理させ、発表できるように指導する。

	<p>(4) 各グループで役割を決め、どのような図形を見つけたのか発表する。</p> <p>(5) (4)で聞いたものと自分のグループのものを比較し、面白いと思った図形をパワーポイントにまとめる。</p> <p>(6) 各グループが作ったものを全員で比べながら、1つの図形について定義を考える。</p> <p>(7) (6)の考えをもとに、自分のグループで作った図形についての定義を考える。</p>	<p>・端で重ねて三角形を作る →直角三角形ができる。</p> <p>◇面白いと思ったものは、許可を得て写真を撮り、グループで共有できるようにする。</p> <p>◇パワーポイントの共有機能を使い、各班で面白いと思ったものを1つのデータにまとめる。〈C1〉</p> <p>◎考えてくれた正方形の根拠は、どの正方形にも当てはまるのだろうか。</p> <p>・大きさは異なっても、直角なのと辺の長さは必ず同じになるから当てはまる。</p> <p>◎自分たちの根拠が本当に定義になるか考えてみよう</p> <p>・二等辺三角形の2つの角が等しいのは、二等辺三角形が成り立たないとできないから違う。</p> <p>・長方形は、4つの角が同じ大きさであればどんな大きさでも成り立つ。</p>	<p>○グループの中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表係</li> <li>・聞き取の係</li> </ul> <p>を設定する。</p> <p>○発表の係は、iPad を用いて、図形をどのように作ったか説明する。</p> <p>□図形の定義の意味を理解している。</p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>(1)本時のまとめをする。</p>		

# 第1学年6組理科学習指導案

期 日 令和6年11月7日(木) 5校時  
生徒数 男子20名 女子19名 計39名  
授業者 福澤 裕康

## 1 単元名 音の世界 (大単元 身のまわりの現象)

### 2 単元について

#### (1) 教材観

小学校では、第3学年で「光の性質」、「物と重さ」、「風とゴムの力の働き」、「磁石の性質」、第4学年で「空気と水の性質」、第6学年では「てこの規則性」について学習している。

本単元では、理科の見方・考え方を働かせ、光や音、力についての観察、実験を行い、身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら理解させるとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけさせ、思考力、判断力、表現力等を育成していく。具体的には、身近な物理現象として、光の反射・屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きについて学習を進めていく。

#### (2) 生徒観

本学級は、アンケートの結果、『理科は好きですか』という質問に対して「好き」、「どちらかといえば好き」と答えた生徒が91.9%と多く、理科に対する意欲が高いことがわかった。しかし、『授業中に、挙手・発言・発表することは得意ですか』という質問に対して、「苦手」、「どちらかという苦手」と感じている生徒は54.1%、『実験結果をまとめ、考察することは得意ですか』という質問に対して、「苦手」、「どちらかという苦手」と答えた生徒が73.0%と過半数を超えてしまった。

以上のアンケート結果から、理科は好きだが、発表したり、まとめたりするのが苦手である生徒が多いと考えられる。したがって、ジグソー法的な学習形態などを取り入れることにより、個人の発表力やまとめる力を高めることにより、深い学びを実現させたい。また、光や音の単元は身近な現象が多く、興味や関心を引きやすい。様々な実験や観察を通して、生徒たちがこれらの現象を再確認するとともに、正しい知識・理解の定着や科学的に探求しようとする態度が身につくように授業を行っていきたい。

#### (3) 指導観

生徒の実態を踏まえ、本単元では、身近な現象の原因を自分たちで考え、班で話し合うことで、音の働きの原理や仕組みについて興味関心を深めていく。また、実験を多く行い、実際に実験器具を使わせることで、正しい実験の仕方を身につけさせる。そして、グループでの学習活動を多く取り入れ、生徒が自分の考えを持って発表する機会を増やし、意見交換が活発に行うことにより、発表力やまとめる力を向上させたい。

### 3 研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT 活用場面 1

大型モニターとプレゼンテーションソフトで既習事項を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)

写真や動画を用いて本時の学習事項に関わる教材を提示し、本時の学習への興味関心を引き立てる。



#### ICT 活用場面 2

teams の中に教員が用意した資料を活用した知識構成型ジグソー法の手法を取り入れた学習活動 (B3)

タブレット端末上で資料の伝達・共有を行うことで、ICT 機器を活用したプレゼンテーション能力の向上や生徒同士のコミュニケーションの活性化が期待できる。

### ICT 活用場面 3

クロストークの活動の際、Word を用いて、各グループのまとめを全体で共有し、科学的な見方・考え方にせまる。(C2)

## 4 単元の指導計画と評価

### (1) 単元の目標

身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音、力の働きを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付け、見通しをもって観察、実験などを行い、規則性や関係性を見いだして、科学的に探究しようとする態度を養う。

### (2) 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音、力の働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現している。	身近な物理現象に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

### (3) 単元の指導と評価の計画

第1章 光の性質	9時間
第2章 音の性質	4時間(本時 2/4)
第3章 力のはたらき	7時間

時数	主な学習活動(目標)	学習内容	○ 指導上の留意点 ★ 評価規準(評価方法)
1	・音の発生と伝わり方を理解する。	・音はものが振動することによって生じ、空気中などを伝わっていることを理解する。	○前時の内容で学んでいる生徒もいるが、間違った認識をしていないか注意する。 ★音の伝わり方について説明できる。【知識・技能J】(プリント・発言)
2 本時	・身近な現象の原因について、自分たちの考えをまとめる。	・音について、エキスパート学習を用いて、自分たちの考えをまとめる。 ・班員の意見を聞き、予想する。	○それぞれエキスパート学習の内容が難しくすぎないように注意する。 ★エキスパートで学んだことをしっかり理解できている。【知識・理解】(プリント) ★班員と意見の共有をしながら、予想することができている。【思考・判断・表現】(プリント)
3	・音の大きさや高さについての実験を行い、自分たちの考えをまとめる。	・音の大きさは強くはじくか弱くはじくか、音の高さは弦の長さや張りの強さに関係していることを理解する。	○実験の課題を理解し、弦のはじく条件と、音の大きさや高さの関係について適切な方法で調べているか注意する。 ★音の大きさや高さや音源の振動の関係について理解している。【思考・判断・表現】(プリント・発言) ★目的意識をもって実験を行い、測定値から関係を考えることができる。【知識・技能】(取組状況・プリント)
4	・音を波形で表し、大きさや高さの関係について学ぶ。	・音の大きさや高さによって、音の波形がどのように変わるかを理解する。	○音によりどのように波形が変わるかをしっかりと理解させる。 ★音の大きさと振幅、音の高さと振動数の関係について理解し、音の波形を用いて説明できる。【知識・技能】(プリント・発言)

## 5 本時の指導計画

### (1) 本時のねらい

・音の性質について、資料の読み取りや協同的な学習を通して考察し、自分の言葉で適切に表現している。

【思考・判断・表現】

### (2) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点    ◇ICT 活用場面    ●評価基準【観点】
導入 3分	<p>(1)既習事項の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音が振動であること。</li> <li>・空気を振動して音が伝わること。</li> <li>・オシロスコープの使い方。</li> </ul> <p>(2)本時の課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題 音の性質を学び、波形と同じ音を実際に作ってみる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対する自分の考えをワークシートに記述する。</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 1</p> <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>大型モニターとプレゼンテーションソフトで、既習事項を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)</p> </div> <p>○とある音の波形を提示し、学習課題に対する興味関心を引き立てる。</p>
展開 42分	<p>(3)エキスパート活動（3～4人班）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①音の波形について</li> <li>②音の大小による変化</li> <li>③弦の張り方や長さによる音の変化</li> <li>①～③の小課題の資料のうち、1つを担当しわかることを記入する。</li> <li>・グループごとにエキスパート活動の内容について意見を交換および共有し、自身の資料の内容を深め合う。</li> </ul> <p>(4)ジグソー活動（3～4人班）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート活動での情報を発表し合い、それぞれの視点・資料からわかったことを共有する。</li> <li>・ジグソー活動を通してわかったこと本時の課題に対する考えをまとめる。</li> </ul> <p>(5)クロストーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー活動を通して考えた学習課題に対するまとめをタブレットで写真に撮り、撮った写真を Word のテンプレートに載せて、考えを全体で共有する。</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 2</p> <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Teams の中に教員が用意した資料を活用した知識構成型ジグソー法の手法を取り入れた学習活動。エキスパート学習での読み取り資料、ジグソー活動でのプレゼン資料として活用する。(B3)</p> </div> <p>○資料を写すのではなく、他者の考えを聞いて、それを自分の言葉で記入するように指導する。</p> <p>○自分の担当した小課題の考察結果を他の班員にわかりやすく伝えるように指導する。</p> <p>○他の意見を取り入れ、自分の考えと関連付けることで、協働して本時の課題を解決するように促す。</p> <p>◇ICT 活用場面 2</p> <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>クロストークの活動の際、Word を用いて、各グループのまとめを全体で共有し、科学的な見方・考え方にせまる。(C2)</p> </div> <p>●音の性質について、資料の読み取りや協同的な学習を通して考察し、自分の言葉で適切に表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
終末 5分	<p>(6)本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに、本時の振り返りを記入する。</li> </ul>	<p>○授業前と授業後の考えを比較させ、音の性質や波形に考えさせる。</p>

(3) 板書計画

課題 音の性質を学び、波形と同じ音を実際につくってみる。

廊下側

いつもの班

1班	2班
3班	4班
5班	6班

7班	8班
9班	10班

中庭側

➔

廊下側

グループ班

A	A
B	B

C	C
C	C

中庭側

各班の発表

1班	4班	7班
2班	5班	8班
3班	6班	9班

6 本時の評価

観点別	実現状況		Bに達しない生徒に対する指導例
	A(十分満足できる)	B(おおむね満足できる)	
	班員と話し合うことで、科学的な考え方を養うとともに、身近な現象を、学んだことと関連づけて説明することができる。	自分の担当するエキスパート活動の資料を班員に伝え、身近な現象について考えることができる。	それぞれのエキスパート活動で、わからない生徒がいたら、わかっている生徒に説明させる。 全員わかっていない場合は、こちらから声掛けを行う。
評価方法	・生徒の行動観察    ・ワークシートの記録		

# 第3学年6組外国語科学習指導案

期 日 令和6年11月7日（木）5校時  
生徒数 37名（男子19名 女子18名）  
授業者 山口 泰斗

## 1 単元名

Unit5 Let's listen4 New Horizon3（東京書籍）

## 2 単元について

### (1) 教材観

本単元ではインドの偉人であるガンディーを通して「平和や人権」の大切さについて取り上げている。自身の生涯をかけて平和と人権について主張してきたガンディーの精神について触れることができる。近年の世界情勢を踏まえた上で、本単元では平和と人権の大切さについて考えさせたい。

### (2) 生徒観

本学級では、男女の仲が非常に良い。前学期に行われた体育祭の学年種目において優勝したことによって団結力がついた。そのため言語活動においての他者を支え合う活動に非常に積極的であり、協働的学習に適している。令和6年度埼玉県学力・学習状況調査において、本学校の3学年は埼玉県平均より0.9ポイント高い結果が出ている。しかし「書くこと」の項目においては-2.9ポイントとなっている。そのため、日頃の授業において両項目を伸長するための活動は毎時取り入れており、本時でも行っていく。

### (3) 指導観

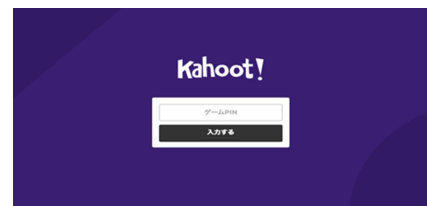
本単元では、関係代名詞が扱われており、それを用いて「平和や人権」について英語で説明できるようにすることをねらいとする。本単元の言語材料は非常に複雑な部分があるため、既習事項と比較しながら教授していく必要がある。そのため各授業において帯活動の一環である Kahoot を用い生徒たちが楽しみながら復習、授業の導入に参加できるようにする、同時に基礎知識の定着を図っていく。最終的な目標である「平和や人権について英語で説明できるようにする」を達成するために、①文章の内容を理解する ②本単元の言語材料の構造を把握し簡単な文章を書けるようになる、といった2つ手順を着実に踏ませた上で取り組んでいきたい。

## 3 研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

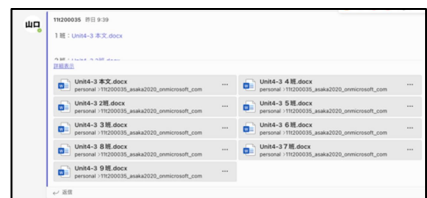
### ICT 活用場面 1

大型モニターと web ソフト “Kahoot” を使い既習事項の復習と本時の導入をクイズ形式で行う。授業への積極性を促す。(B1)



### ICT 活用場面 2

iPad を用いて、班ごとに word の文章を共同編集しながら、ニュースで聞いた内容についてまとめる。(C1)





#### 4 単元の指導計画と評価

##### (1) 単元の目標

- ・「平和や人権」についての自分の意見や考えを英語で話したり書いたりする技能を身に付けている。
- ・関係代名詞の特徴やきまりを理解し、「平和や人権」考えたことや感じたことを関係代名詞を用いて書く技能を身につけている。

【知識及び技能】

- ・「平和や人権」についての自分の意見や考えを英語で話したり書いたりしている。

【思考力、判断力、表現力】

- ・「平和や人権」についての自分の意見や考えを英語で話したり書いたりしようとしている。

【学びに向かう力、人間性】

##### (2) 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やりとり]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表] 発	<p>&lt;知識&gt;</p> <p>① 関係代名詞の文の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;</p> <p>② 「平和や人権」について自分の意見や考えを述べるための技能を身につけている。</p>	<p>「平和や人権」についての自分の意見や考えをまとめて述べている。</p>	<p>「平和や人権」についての自分の意見や考えを書こうとしている。</p>
書くこと 書	<p>&lt;知識&gt;</p> <p>① 関係代名詞の文の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;</p> <p>② 「平和や人権」について自分の意見や考えを書くための技能を身につけている。</p>	<p>「平和や人権」についての自分の意見や考えについてまとまりのある文章を書いている。</p>	<p>「平和や人権」についての自分の意見や考えについてまとまりのある文章を書こうとしている。</p>

##### (3) 単元の指導と評価の計画 (7時間計画)

時	◆ねらい○学習活動	評価規準<評価方法>
1	<p>◆本単元の目標を理解する</p> <p>◆ニュースの内容を聞き取り、理解する。</p> <p>○音声をきいてニュースの内容を理解する</p>	<p>○本時では目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p>
2 本時	<p>◆ニュースの内容を理解し、まとめ、発表することができる。</p>	<p>○本時では目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p>

	○音声で聞いた内容をまとめて、どのようなニュースだったか発表する。		
3	◆ガンディーについての情報を理解し、書くことができる。 ○教科書の英文を読み、内容について理解しワークシートに書く。	書	○ガンディーについての情報を理解し、既習の言語材料を使いながら英語で書くことができる。 <ワークシート>
4	◆関係代名詞を使って物に詳しい情報を加えることができる。 ○関係代名詞を用いた言語活動を行う。	書	○関係代名詞を使って物に詳しい情報を加えて書くことができる。 <ワークシート>
5	◆ジョシュと朝美の会話内容を理解し、その内容について書くことができる。 ○教科書の英文を読み、内容について理解しワークシートに書く。	書	○ジョシュと朝美の会話内容についての情報を理解し、既習の言語材料を使いながら英語で書くことができる。 <ワークシート>
6	◆関係代名詞を使って人に詳しい情報を加えることができる。 ○関係代名詞を用いた言語活動を行う。	書	○関係代名詞を使って人に詳しい情報を加えて書くことができる。 <ワークシート>
7	◆ガンディーの伝記の内容を理解することができる。 ○本文の内容を理解する。		○本時では目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
後日	◆「平和や人権」について自分の意見と考へについて発表することができる。 ○パフォーマンステストを行う。	発	○「平和や人権」について自分の意見と考へについて発表することができる。

## 5 本時の指導計画

### (1) 本時のねらい

- ・ニュースの内容を理解し、まとめ、発表することができる。
- ・【観点】主体的に学習に取り組む態度

### (2) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点	◇ICT 活用場面	●評価規準【観点】
導入 5分	(1) 帯活動 ・大型モニターで Kahoot を行う。		◇ICT 活用場面 1  大型モニターと web ソフト “Kahoot” を使い既習事項の復習と本時の導入をクイズ形式で行う。授業への積極性を促す。(B1)	
		○現在分詞・過去分詞を使ったクイズを主に行い Unit4 の復習を行う。		

	(2) 本時の目標を把握する。	
展開 40分	<p>(2) 前時に聞いた音声をもう一度聞く。</p> <p>(3) 聞いた内容を共有する。ニュースの内容を完成させる。</p> <p>(4) 完成させた原稿をクラスの代表者が発表する。</p> <p>・代表者1名に原稿を読んでもらう。それに合わせて教師がパワーポイントで正解を映す。</p>	<p>○聞いた英語の音と意味の両方を理解するように促す。</p> <p>○聞いた音はカタカナでもいいからメモで残すようにする。</p> <p>【観点】主体的に学習に取り組む態度</p> <p>●他の生徒と協力しながらニュースの内容について理解し、発表に向けて活動に取り組もうとしている。</p> <p>&lt;観察&gt;&lt;ワークシート分析&gt;</p> <p>◇ICT活用場面2</p> <p>iPadを用いて、班ごとに word の文章を共同編集しながら、ニュースで聞いた内容についてまとめる。(C1)</p> <p>○班員全員で共同編集を行い、英語が苦手な人をサポートするように促す。</p> <p>○できるだけ英語らしい発音で文章を読ませる。その後日本語の意味も生徒に答えさせることを目標とする。</p> <p>○生徒の発表に合わせてながらパワーポイントで映す。</p>
	終末 5分	(5)本時のまとめ

## 第3学年4組音楽科学習指導案

期 日 令和6年11月7日（木）第5校時

生徒数 36名

授業者 阿部 奈保美

### 1 単元名

曲想を感じ取って、表情豊かにアルトリコーダーを演奏しよう

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本教材は、学習指導要領「第2学年及び第3学年」A表現、(2)器楽、ウ(イ)にある「創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能」を狙いとしている。

〔共通事項〕(1)アの音楽を形づくっている要素のうち、音色、旋律、テクスチュアを扱う。

「ふるさと」は誰もが知っている文部省唱歌で、親しみやすく豊かなメロディーと美しいハーモニーを感じ取ることができる教材である。

#### (2) 生徒観

本学級は男子18名、女子18名、合計36名で、とても明るく穏やかな生徒が多く、お互い協力しながら前向きに取り組む雰囲気がある。合唱コンクールにおいては、パートリーダーを中心に自分たちで表現を工夫しながら取り組む場面も見られた。しかし、リコーダーにおいては、楽譜も読めず、運指もほとんど理解できていない生徒も数名在籍している。

アンケートの結果を見ると、「音楽が好き」と答えた生徒は98%であるが、リコーダーに関しては「好き」と答えた生徒は55%で、リコーダーが好きでも嫌いでもない、または苦手と答えた生徒が45%と、約半数が苦手意識を持っている。

#### (3) 指導観

リコーダーの指導は歌唱の指導に比べ、読譜や運指の理解など、演奏に至るまでの地道な準備が多く必要である。また、練習もポイントをつかみながら、丁寧に組み立てていかなければならない。苦手な生徒も多くいる中、できるだけ丁寧にポイントを説明したり見本を示したりすることで活動の見通しをもたせるとともに、活動の際には生徒同士の関わりを大切にしながら取り組ませることで、2重奏の楽しさを味わわせ、表現力を育てていきたい。

また、「ふるさと」は、誰もが知っている日本の歌曲で、親しみやすく美しいハーモニーを感じることができるので、歌詞の意味を感じながら表情豊かに演奏出来るようにしていきたい。

### 3 研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT 活用場面 1

大型モニターとパワーポイントを使い、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)



構造をクイズ形式で復習することにより学習意欲が高まり、姿勢の写真を観ることでより正確に姿勢を取ることが出来る。

#### ICT 活用場面 2

ペアで演奏動画を撮影し合い、演奏の分析を行う。(C3)

カメラの動画機能を使い、ペアで演奏動画を撮影する。お互いの演奏を聴き、タンギングの仕方や姿勢、指の動かし方、音の長さを分析する。できなかった部分を改善し、良い演奏ができるよう考えさせる。客観的に自分の演奏を聴くことによって色々な発見ができる。



### 4 単元の指導計画と評価

#### (1) 単元の見直し

「ふるさと」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫してリコーダーで演奏する。

## (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・「ふるさと」の曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</p> <p>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、器楽で表している。</p>	<p>「ふるさと」の音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p>	<p>「ふるさと」の音や音楽、音楽文化に親しむことが出来るよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

## (3) 単元の指導と評価の計画 (全3時間)

時	◆ねらい ●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点
1	<p>◆「ふるさと」の調号の意味を理解し、新しい運指を覚えて演奏する。</p> <p>◆アルトリコーダーで二部合奏にチャレンジすることを覚える。</p>	<p>○運指やタンギングなどの確認</p> <p>○二人組でタブレット端末を使いながら音楽表現を追究していくことを伝える。</p>
2 (本時)	<p>◆「ふるさと」の旋律、テクスチャを知覚し、雰囲気を感じながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。</p> <p>◆「ふるさと」を演奏するために必要な奏法、息の使い方などの技能を身に付け、器楽で表す。</p> <p>●二人組で「ふるさと」の音楽表現を創意工夫する。</p> <p>・前半8小節の各声部、奏法を二人組でチェックしながら丁寧に練習する。</p>	<p>○リコーダーを演奏しながら表現を工夫する活動も大切にしよう声をかける。</p> <p>○タブレット端末やワークシートを用いて主体的に取り組むことが出来るようにする。</p>
3	<p>◆「ふるさと」の曲想を感じ取り、リコーダーの奏法を工夫することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。</p> <p>・後半8小節を練習し、最後に通してみる。</p>	<p>○主旋律と副次的な旋律の役割を理解し、アーティキュレーションを考えながら曲を仕上げる。</p>

## 5 本時の指導計画

### (1) 本時のねらい

- ・アルトリコーダーの演奏をペアで撮影し合い、お互いの演奏を分析し、その過程での新しい発見を通して、より良い演奏の仕方を考える。【思考力・判断力・表現力等】

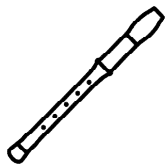
### (2) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT 活用場面 ●評価基準【観点】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチ、発声練習</li> <li>(1)前時の復習</li> <li>・リコーダーについてパワーポイントを使って確認する</li> <li>・本時の課題の確認</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 1</p> <p>大型モニターとパワーポイントを使い、生徒の学習意欲を高める。(A1)</p> <p>○リコーダーの構造や構え方、姿勢について改めて確認させる。</p> <p>課題 お互いの演奏を分析し、より良い演奏をしよう！</p>
展開 40分	<p>(2) 音階の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サミングの確認</li> <li>・新しい運指 (B b) の確認</li> </ul> <p>(3) 「ふるさと」の練習 (個人練習→ペア練習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに動画を撮り合い、構え方や姿勢、指の動かし方、タンギングの仕方などの課題を見つける。</li> </ul> <p>(4)課題克服のための練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一度動画を撮り、1回目と比較してみる。</li> <li>・ペアで合わせ</li> <li>・最後に全体で合わせ</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 2</p> <p>ペアで演奏動画を撮影し合い、演奏の分析を行う (C3)</p> <p>○お互いに演奏を分析し、できなかった部分を明確にワークシートに記入をさせる。お互いの演奏を分析し合うように適宜声掛けを行う。</p> <p>●アルトリコーダーの演奏をペアで撮影し合い、お互いの演奏を分析し、その過程での新しい発見を通して、より良い演奏の仕方を考えている。 【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>○構え方や姿勢に気をつけ、2パートの重なりを感じ取りながら演奏させる。</p>
終末 5分	<p>(5)本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめと自己評価表を記入する。</li> <li>・次時の学習内容を知る。</li> </ul>	<p>○本時の内容を簡潔にまとめる。</p> <p>○次回の学習内容について触れておく。</p>

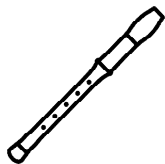
### (3) 板書計画

本時の課題：曲想を感じ取って、表情豊かにアルトリコーダーを演奏しよう

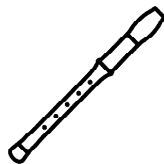
○リコーダーの運指表



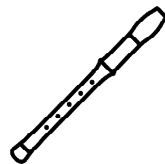
ド



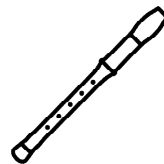
レ



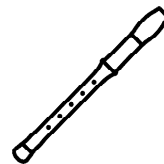
ミ



ファ

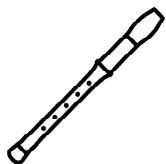


ソ



ラ

○新しい運指



シb



# 第1学年8組美術科学習指導案

期 日 令和6年11月7日(木) 5校時

生徒数 39名

授業者 石塚 加奈

## 1 題材名「カフェカトラリー」

A 表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B 鑑賞(1)ア(イ)、共通事項(1)ア、イ

## 2 題材について

### (1) 教材観

木彫における彫刻刀を使用した題材は小学校でも多くの生徒が取り組んでおり、親しみやすい教材である。また、一度彫ったり、削ったりしてしまうと復元することが難しいことから、アイデアスケッチを活用し、完成形をイメージしたり、計画の見通しをもったりしながら作品への愛着を深めさせたい。生徒が楽しく個性豊かに表現活動ができるようになるためにも、美術とは完成作品の上手さや技術力だけを指すのではなく、生活の中から美を見出す力であることや、生活に深く根づいているという事を知り、様々な関わり方があるのだと感じられるようにしたい。

### (2) 生徒観

1学年はこれまでに消しゴムハンコの制作で彫刻刀を使用している。また、技術の授業の木材加工で板材を切ってペン立てや本棚を製作しており、素材の違いから力の入れ方や道具を使い分け、完成までの見通しをもって制作させたい。また、鑑賞会ではタブレット端末を活用し自分の作品の制作意図をまとめたり、振り返りを行ったりした上でお互いの作品を見合い表現の工夫や作者の表現意図について、自分とは違う視点からの表現方法を学んだ。今回は、デザインだけでなく、使用感についても考えさせながら機能と美しさの調和を考えるきっかけとしたい。

### (3) 指導観

本題材は、木材やカトラリーの形状を捉え、表現する力を養うことをねらいとしている。普段使っているカトラリーの特徴から、どのように加工していけばよいのか、使用イメージが持てるよう、実際に様々なカトラリーを用意し特徴を捉え、使いやすさや機能と美しさの調和を考えさせたい。

カトラリーは持ち手と用途にあった使用部分という単純な構造であるが、使う人のことを考え多くのデザインを出させたい。模様デザインについては、基礎的な彫り方や彫刻刀の使い方を学べるように配慮し、消しゴムハンコでも用いた「模様」を意識して彫ることを指導していく。電動糸鋸や彫刻刀は小学校で使用し、既習済みだが、本単元でも使用する前に使い方や注意点を確認し、安全面に配慮する。表現したいものや場所によって道具を使い分けてスムーズに制作できるよう本時の目標と照らし合わせて指導していく。

### 3 研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT 活用場面 1

##### PowerPoint を活用した作品概要の作成 (B3)

作品概要の作成をタブレット端末で使ってまとめることで完成した作品だけでなく、制作過程や資料なども入れながら自らの制作を想起しやすくなる。作者はレイアウトにこだわりながら制作意図もまとめ、見た人がわかりやすく作者の制作意図や表現方法を伝えることを意識させる。

#### ICT 活用場面 2

##### PowerPoint を活用した作品概要を提示しながらの鑑賞 (C1)

実物の作品と作品概要を合わせて鑑賞する。作者の制作意図を読み取り、自分との表現のとの表現の違いやよさを見出し美術的な見方や感じ方を広げる。

#### ICT 活用場面 3

##### 作品概要のデータ提出及び発表 (C1)

作成した作品概要をそのままデータ提出させ、発表の際大型テレビに映し提示することができ、生徒も後日見返すことができる。また、教師の評価材料としてもデータで管理し、見返すことができる。

### 4 題材の指導計画と評価

#### (1) 題材の目標

- ・ 形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、カトラリーの造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 〈知識及び技能〉
- ・ 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫し、材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら見通しをもって表す。 〈知識及び技能〉
- ・ 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料、模様の形などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和や単純化、強調などの効果を考え、表現の構想を練る。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ カトラリーの、目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく主題を生み出し、使いやすく美しいデザインを総合的に考え構想を練り、表現の学習活動に取り組もうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉
- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じとり、使いやすさと美しさの調和のとれたデザインの工夫について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に 取り組もうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、<u>カトラリーの造形的な特徴</u>などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p><b>技</b> 材料や用具の生かし方などを身に付け、<u>意図に応じて表現方法を工夫</u>し、材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら見通しをもって表している。</p>	<p><b>発</b> 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料、<u>模様</u>の形などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和や<u>単純化、強調などの効果</u>を考え、表現の構想を練っている。</p> <p><b>鑑</b> <u>カトラリーの、目的や機能</u>との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p><b>態表</b> 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく<u>主題を生み出し、使いやすく美しいデザインを総合的に考え構想を練り</u>、表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p><b>態鑑</b> 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく<u>造形的なよさや美しさを感じとり、使いやすさと美しさの調和のとれたデザインの工夫について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞</u>の学習活動に取り組もうとしている。</p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

(3) 題材の指導と評価の計画(全10時間扱い)

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	発	鑑	態	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標確認と制作の見通しをもつ。</li> <li>カフェで使用することを意識させ目的から主題設定を行う。</li> <li>制作方法や手順、用具の確認をする。</li> </ul>			○			「思考・判断・表現(発想や構想)」の視点で、使用する目的を想定して自分なりのテーマをもつことができたかを把握し指導に生かす。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なカトラリーのデザインを鑑賞し、使いやすさと美しさについて考える。</li> <li>使いやすさと美しさの構想を深めアイデアスケッチをする。</li> </ul>				◎ 観察記述		「思考・判断・表現(鑑賞)」は使いやすさと美しさについて話し合い、他者の考えを聞いて自分の考えを広げることができたかという視点で評価する。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用イメージの画像やアイデアスケッチをもとに下書きをする。</li> </ul>		◎ 観察作品	○ 観察作品			「知識・技能(技能)」は用具を効果的に扱い、立体的に表現しているという視点で評価する。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>電動糸鋸の使い方について確認し、切り出す。</li> </ul>						
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具を効果的に扱い、立体的に成形していく。</li> <li>模様を生かした形に成形していく。</li> <li>作品を魅力的にするための装飾や表面の仕上げなどを工夫していく。</li> </ul>	◎ 観察作品		◎ 観察作品			「知識・技能(知識)」は使いやすさを追求し、立体的なものの見方を持ち表現しているという視点で評価する。 「思考・判断・表現(発想や構想)」は模様を生かし、工夫しているかという視点で評価する。
6							

7	・使いやすさや厚み、パーツの強度を確認する。			◎ 観察 作品	▼ ◎ 観察 対話 作品 発表 記述	「思考・判断・表現（発想や構想）」は模様を生かし、工夫しているかという視点で評価する。
8	・やすりがけをして作品を仕上げていく					
9	・つや出しのための油をぬる。 ・パワーポイントに作品の概要をまとめる。			○ 観察 作品		「思考・判断・表現（鑑賞）」は使いやすく美しい形を構想しているかという視点で評価する。
10	・完成作品を鑑賞して互いのよさや美しさを感じとり、対話から自分の考えを広げていく。 ・制作の振り返りをする。			◎ 観察 発表 記述		「思考・判断・表現（鑑賞）」は作品鑑賞から自分の考えを広げているという視点で評価する。

## 5 本時の指導計画（本時 10 / 10時）

- (1) 目標
- ・完成作品を鑑賞して互いのよさや美しさを感じとり、対話から自分の考えを広げていく。  
〈思考力、判断力、表現力等〉
  - ・制作の振り返りをする。  
〈学びに向かう力、人間性等〉

### (2) 準備

○教師：大型テレビ、タブレット、ワークシート

○生徒：作品、タブレット、筆記用具

### (3) 本時の展開

時	学習活動 予想される生徒の 具体的な姿（「 」）	指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____） ◇ICT活用場面	評価と手立て 【観点】：評価基準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない生徒への手立て
導入 10分	1 本時のねらいを知り、活動の見通しをもつ。	○目標を確認し、本時の学習の見通しをもたせる。	
	提案 それぞれのカフェのイメージや表現の違いやよさから見方や考え方を広げよう。		
	・本時の流れを確認する。	○板書で視覚的にわかりやすく示す。	
展開 30分	2 鑑賞の準備をする。 ・作品カード（キャプション）を記入する。 ・鑑賞のきまりを確認する。	◇ICT活用場面1 <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0e0f0; display: inline-block; margin: 5px 0;">前時までに作成した PowerPointで作成した作品 概要の提示（C1）</div> ○立体作品のため鑑賞の際に手にとりやすいが、触ってほしくない生徒のために「触らないでねカード」を用意する。	

<p>3 作品を鑑賞する。(12分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よいと思った作品に対する感想をワークシートに書く。 「カフェのイメージに合ったものができた」「手に取ってみたい」</li> </ul> <p>4 作品のデータを提出する。</p> <p>5 友達の作品を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書いた作品のうち、1つを発表する。 「確かにすごい」「イメージに合っている」「まとめ方が上手」</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 2</p> <p>タブレットの作品概要と実際の作品を見ながら本時の学習目標に沿うよう鑑賞活動を行う (C1)</p> <p>○作品全体のイメージや作風で捉えられるよう鑑賞のポイントを示す。(形・使いやすさ)</p> <p>○OneDrive に作品提出させる。</p> <p>◇ICT 活用場面 3</p> <p>OneDrive に作品提出させ、発表の際に提示する (C1)</p> <p>○よいと思ったものを全体で共有させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【態鑑】主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現意図などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。(観察・発表・記述)</li> <li>◎友達の作品のよさを感じながら感想を述べている。</li> <li>◆作品を手にとらせ、残り時間と照らし合わせて作品を見るよう指導する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●【表鑑】造形的なよさや美しさを感じ取り、意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。(ワークシート)</li> <li>◎鑑賞の観点を抑えて、気付いたこと、学んだことを具体的に言語化できている。</li> <li>◆鑑賞ポイントを再確認し、教師の質問に答えさせながら思ったことを書かせる。</li> </ul>	
<p>整理 10 分</p>	<p>6 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作や鑑賞を通して、気づいたこと、学んだことを記入する。</li> </ul>	<p>○学べたこと、自身の作品や取り組みの良かったところ、次への課題を明確にできるように、振り返るポイントを伝える。</p>	

#### (4) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">学習目標</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 80%; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">本時の流れ</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 40%; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">作品提出場所</p> </div>
--	---	--

# 第3学年1・2・3組保健体育科学習指導案

期 日 令和6年11月7日(木) 5校時

生徒数 3年1・2・3組 男子66名

授業者 安田 光貴

## 1 単元名 柔道 (武道)

## 2 単元について

### (1) 教材観

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する対人的な技能を基にした運動である。武道は、中学校で初めて学習する内容であるため、基本動作と基本となる技を確実に身に付け、それらを用いて、相手の動きの変化に対応した攻防を展開することができるようにすることが求められる。

### (2) 生徒観

生徒にとっての武道(柔道)の楽しさ	生徒にとって武道(柔道)を遠ざける要因
○覚えた技を使って試合をするとき	●ケガが怖い
○仲間から声をかけてもらい、励ましてくれる	●技能の差がはっきりとでてしまう
○一本が決まったとき	●受け身が痛い

### (3) 指導観

#### ・技能及び知識

柔道は中学校で初めて行う単元であることから、見本や映像資料を活用し、視覚で正しい基本動作や技の行い方を理解させる。また、自分が技をかけているときや受け身をとっているときの映像を見せることによって、技をかける時のポイントや受け身などの姿勢など課題を見つけやすくするなどの工夫をしていく。

#### ・思考力・判断力・判断力等

自己の学びを振り返るために、フォームスを活用する。また、自分の課題を明確に抽出できるよう、タブレット等の教具を使って自分の取り組みや他の人の取り組みを見ることにより、良い点や改善点を考えさせる。

#### ・学びに向かう力、人間性等

積極的に安全な環境づくりができるよう、教具や場所を工夫していく。また、安全に十分注意して授業を展開できるようにきまり事を設定したり、安全係を置いたり配慮する。

## 3 研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

### ICT 活用場面 1

(B3) 自分の連絡技を動画で分析し課題と改善点を抽出する。

技ができるように着目する観点(ポイント)を掲示し、課題を見つけさせる。抽出された課題からポイントを絞って練習させ技能の向上を図る。

### ICT 活用場面 2

(B1) 振り返りをフォームスで行う。

学習カードの記入をフォームスで行わせ、活動(運動)時間の確保を図る。小テストを導入し知識の向上を図る。

#### 4 単元の指導計画と評価

##### (1) 単元の目標

- ・相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防ができるようにする。 〈知識及び運動〉
- ・攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。 〈学びに向かう力・人間性等〉

##### (2) 単元の評価規準

	知識及び運動	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道の特性に応じて、攻防を展開するための基本となる技や得意技を身に付けることができる。</li> <li>・伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に積極的に取り組もうとしている。</li> </ul>

	知識及び運動	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
学習活動に即した評価規準	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 受け身や投げ技の基本的な技能を身に付けることができる。</li> <li>② 習得した技を実践的に活用することができる。</li> <li>③ 柔道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。</li> <li>④ 受け身や投げ技の行い方について学習した具体例を挙げている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 自分の課題を発見し、改善方法を見つけている。</li> <li>② 仲間の課題を見つけて助言している。</li> <li>③ 健康や安全を確保するために、体調や技量に応じて適切な練習方法を選んでいる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 基本となる技の習得に積極的に取り組もうとしている。</li> <li>② 用具やの安全確認、段階的な練習、怪我の防止などに留意して練習に取り組んでいる。</li> </ol>

(3) 指導と評価の計画 (○時間扱い) 本時は○印 6/8時

時間	1	2	3	4	5	⑥	7	8	
ねらい	柔道について知識を深めよう。	きれいに固め技ができるようにアドバイスしあおう。	受け身の大切さを学び、正確に安全に行えるようにしよう。	崩し、体さばきの動作で投げ技「体落とし」をマスターしよう。	投げ技「膝車」をマスターしよう。	投げ技「大腰」をマスターしよう。	選択した技の完成度を高めよう。	得意な技を試合で発揮できるように工夫しよう。	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>特性や約束事、学習の仕方、高まる体力</li> <li>準備片付け方</li> <li>固め技の復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>固め技の復習</li> <li>約束練習</li> <li>簡易試合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受け身の仕方</li> <li>ミニゲーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「崩し」と「体さばき」についての説明</li> <li>体落としの仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>膝車の仕方について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大腰の仕方について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決学習</li> <li>連絡技について知る</li> </ul>	
学習過程	1 あいさつ 2 出欠確認・健康観察 3 学習課題の確認			1 あいさつ 2 出欠確認・健康観察 3 学習課題の確認 4 準備運動・受け身					
	4 柔道の特性や約束事を理解する 5 準備運動 6 固め技の復習 ・袈裟固め ・横四方固め ・上四方固め	4 約束練習 5 簡易試合 6 整理運動	4 受け身 ・後ろ受け身 ・横受け身 ・前回り受け身 5 受け身ミニゲーム 6 整理運動	5 かかり練習 6 約束練習		5 かかり練習 6 約束練習 7 自由練習	5 連絡技 6 約束練習 7 簡易試合	8 整理運動 9 振り返り 10 健康観察・あいさつ	
評価計画	知・技	③		①④	①	①	①		②
	思・判・表		②					①③	③
	態		②		①	①	①		
	方法	カード	観察	観察・カード	観察	観察	観察	観察・カード	観察・カード
	場面	7	4・5	4・5・7	5・6	5・6	5・6	5・6・7	7・9



5 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

・投げ技「大腰」をマスターしよう。

【知識及び運動】

(2) 本時の展開

準備：デジタルタイマー、タブレット、ホワイトボード、テレビ

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT 活用場面 ●評価基準【観点】
導入 15分	<p>(1)集合、挨拶(黙想、2礼)、健康観察 ・班長を中心に集合隊系に整列する。</p> <p>(2) 準備運動・ストレッチ・受身 (横受け身、前回り受け身)</p> <p>(3) 課題の確認 ・ねらいの確認</p>	<p>○指導上の留意点 ◇ICT 活用場面 ●評価基準【観点】</p> <p>○全員で協力して素早く集合させる。 ○気持ちを集中させるために黙想を行い、元気よく挨拶させる。 ○健康観察をする。見学者には安全係の役割を与える。</p> <p>○準備運動、受け身を正確かつ安全に行わせる。 ○安全面に十分に配慮し行わせる。</p> <p>○投げ技「大腰」のポイントを確認する。</p>
<p>投げ技「大腰」をマスターしよう。</p>		
展開 30分	<p>(4)投げ技「大腰」の習得</p> <p>1 かかり練習</p> <p>2 約束練習① ・グループ内で「受」「取」「撮影」「審判・安全」の役割に分け実施する。 (受→撮影→取→安全)</p> <p>3 課題の確認 ・動画をもとに技の課題を整理する。 (3分)</p> <p>4 約束練習② グループ内で「受」「取」「審判」「安全」の役割に分け実施する。</p>	<p>○グループ内でペアを作らせ活動させる。 ◇ICT 活用場面 1</p> <p style="background-color: #e0e0ff; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;">(B3) 動画撮影 約束練習を動画で撮影し、技の完成度を確認させる。</p> <p>○審判の役割の生徒に正しく判定させる。 ○技のポイントを再度提示し、自己の映像を分析できるように巡回指導を行い助言する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">●投げ技「大腰」をマスターしよう。 【知識及び技能】</p> <p>○フローチャートをもとに約束練習の内容を選択させる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>努力を要すると判断される状況 (C) の生徒への手立て</b>            △1本・技ありがとれない生徒には教師が個別に指導にあたり速度を緩めて行わせる。  <b>十分満足できると判断される状況 (A) の生徒の具体的な姿</b>            ○受側が技から逃げる動作の中でも技が正確に発揮できるように促す。         </p>
終末 5分	<p>(5)整理運動</p> <p>(6)振り返り</p> <p>(7)整列・次時の予告・健康観察・挨拶 (黙想、2礼)</p>	<p>○正しくストレッチを行わせる。 ○本時の振り返りを行いフォームスに入力させる。</p> <p style="background-color: #e0e0ff; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;">(B1) 振り返り フォームスを活用し、個人の振り返りを行う。</p> <p>○見通しが持てるように次時の内容を話す。</p>

## 第2学年8組家庭科 学習指導案

期 日 令和6年11月7日(木) 5校時

生徒数 男子20名 女子18名 計38名

授業者 福田 直美

### 1 題材名「日常食の調理～ふっくらジューシーなハンバーグ～」

B 衣食住の生活(3)ア イ ウ

### 2 題材について

#### (1) 教材観

人間が生きていく上で基本となるものの一つに「食生活」がある。特に中学生のこの時期は、身体の発達が著しく、丈夫な体を作る大切な時期にあたりるとともに、将来に渡って健康的な生活を送っていく基盤を作る時期になる。本題材では、生徒にとって身近な食品を扱い、自ら課題を持って健康・安全で豊かな食生活に向けて考え、工夫する活動を通して、「食品の選択と日常の調理」に関する知識及び技能を身につけ、これからの生活を展望して、食生活の課題を解決する力を養い食生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

#### (2) 生徒観

本校の生徒は、実習や実験を多く取り入れた授業に意欲的に取り組んでいる。また、成長期であることや、スポーツを行うためにも「食べる」ことに対する関心は非常に高く、基礎的な知識を学習する場面でも積極的に取り組み、理解度も高まっている。技能面においては、1年次に「豚肉のしょうが焼き」を作り概ねどの生徒も、「生肉の取り扱い」「肉を焼く」「肉に下味をつける」「ピーマンのせん切り」など基礎的な技能を身につけることができた。さらに2年1学期には「さばの味噌煮」を、夏休みには「課題～包丁を使った調理～」に取り組んで技術の習得を重ねている。しかしながら、情報にあふれた時代であるにも関わらず、作ったものを比較検討し、自分の課題に気づき、改善しようということにまでは、まだ考えがいたっていない。また、実習や実験などの協働学習においてはグループ内で個人の考えを出し合い、より工夫して取り組んでいこうという姿が見られる。

#### (3) 指導観

「ハンバーグ」の調理実習では、はじめに、教科書の材料・手順通りに全工程を一人で行った。本時では、その際の調理実習の反省を通して、「これからの生活を展望して多角的に捉え、解決策を構想する力」、「習得した知識及び技能を生活の場面で継続して活用できる力」を身につけさせるために、次に実践するときにはどんな工夫ができるか、どんなことに気をつけるべきかなどについて考えさせ、見通しを持った計画が立てられるようにすることをねらいとしている。

話し合い活動においては、他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価、改善する力や実習や観察・実験、調査、交流活動の結果などについて、考察したことを科学的根拠や理由を明確にして論理的に表現する力を身につけさせていく。教科特有の言語を用いる活動や言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したり、表現したりする力に関しては、評価、改善の段階で、協働学習によって互いの知識及び技術を共有し合えるように工夫する。また、家庭での食生活を思い浮かべながら課題に取り組ませることによって、日常食の調理を「我が家流」にアレンジできる力も育みたいと考えている。

### 3 研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

第2学年の生徒は、これまでの PowerPoint による発表資料の製作や発表の経験から、ICT を取り入れた学習活動に高い意欲を持って取り組むことができる。また、基本的な IT リテラシーは様々な場面で確認してきている。技術・家庭科では、「ICT は学びの支援ツール」という位置づけて、デジタルメディアによる作品の自己評価や提出、表現技法の向上、グループ内の情報共有、コミュニケーション・コラボレーションなどを体験、実践できる協働学習に取り組ませていく。

#### ICT 活用場面 1

調理実習における作業工程を確認、実際の様子を記録し、技能の向上に活かす。  
PowerPoint の編集による相互の意見交換を行い、自らの課題に気づき、その解決に取り組む手だてを考える。

B1 個に応じた学習 : 一人一人の習熟の程度などに応じた学習

各自の実習の自己評価から、作業を振り返り、課題を設定し、アドバイスなど情報共有をする。作業過程の写真や動画を残すことにより、自己評価が手軽にできるとともに、他者と比較することによって、自分の課題に気づくことができる。

タブレット端末上で資料の伝達・共有を行うことで、ICT 機器を活用したプレゼンテーション能力の向上や生徒同士のコミュニケーションの活性化が期待できる。

#### ICT 活用場面 2

課題に合わせて調べ学習を行い、課題解決のための調理計画を作成する。

B2 調査活動 : インターネット等による調査

B3 思考を深める学習 : 考えを深める学習

生活や社会の中から問題を見出して課題を解決する活動の中で、課題の設定や解決策の具体化のために、情報通信ネットワークを活用して情報を収集・整理したり、実践の結果をコンピューターを用いてわかりやすく編集し、発表したりする力を身に付けさせる。

また、課題解決の手だてを調べ、同じ課題を持つ者と意見を交換することにより、多角的な視点で考えさせる。そして新たな気づきの場とし、各自の知識を深めさせる。

#### ICT 活用場面 3

課題を解決するための調理実習を行い、PowerPoint に追記、行った振り返りをクラスで発表、さらに深めていく。

C1 発表や話し合い : 自分の考えや調理の結果をていじ・交換しての発表や話し合い

C2 協働での意見整理 : 複数の意見や考えを議論して整理

授業で学んだことを踏まえて、今後の調理を行う際の留意点として考えを深め、家庭での実践につなげていく。



#### 4 単元の指導計画と評価規準

##### (1) 単元の目標

「煮込みハンバーグ」の調理を通して食生活に関心をもち、調理や食品の選び方についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともにこれからの食生活をよりよくするための工夫ができるようにする。

- ① 肉の調理について・ハンバーグの作り方
- ② 個人によるハンバーグの調理実習
- ③ よりおいしくするために自己の課題を見つけ解決策を考え、調理計画をたてる。
- ④ 解決策を取り入れた調理実習を行い記録し、結果を発表する。

時間	○ねらい ・学習内容	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○肉の品質の見分け方や調理上の性質、衛生的な取扱い方について理解し、調理計画を作成しよう。  ・ひき肉の表示や衛生的な扱い方、ハンバーグの作り方について教科書を使用して調べる。 ・ハンバーグの加熱の仕方と調理用具の安全な取扱い方に留意しながら調理計画を作成する。	・肉の品質の見分け方や調理上の性質について理解している。 ・ハンバーグの材料の役割を知り、加熱調理の要点について理解している。 ・肉や調理用具の安全と衛生に留意した取り扱い方について理解している。	・肉などの食品や調理用具の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践できるように調理計画をたてることができる。	・ハンバーグの調理に関心を持ち、調理技術を習得しようとしている。
2	○調理に必要な手順や時間で、安全と衛生に留意しながらハンバーグの調理を行う。 ・ハンバーグの中心まで火を通すための整形・加熱の工夫やうまみを閉じ込める加熱方法などに留意する。	・材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに基礎的な日常食の調理が適切にできる。	・観点に応じたハンバーグの調理法について収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。	・用途に応じた食品の選択について理解している。 ・材料に適した加熱調理の仕方について理解している。
2	○「ジューシー&ふっくら」したハンバーグを作るためにプラスする材料や調理法を調べよう。(IC機器の活用) ・「ジューシー」「ふっくら」の観点より必要な情報を収集・整理する。 ・選んだ材料や調理法ごとにグループを作り、内容を深める。 ○自分の目的に応じたハンバーグの調	・観点に応じたハンバーグの調理法について収集・整理することができる。	・日常の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について問題を見出し課題を設定することができる。	・課題を持って、安全で豊かな食生活に向けて考え、工夫しようとしている。

	<p>理計画を作成しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を活用して用途に応じたハンバーグの作り方についてグループで話し合う。</li> <li>・調理に必要な手順や時間、材料を考えて調理計画を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理に必要な手順や時間を考え、調理計画を考え、工夫している。</li> </ul>	<p>(「ふっくらジューシー」に仕上げるために加える材料の例)</p> 
2	<p>○「衛生・安全・協力」に留意し、オリジナルな煮込みハンバーグの調理ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に基づき、実習する。</li> <li>・自分たちの工夫がどのような結果になったのか、他の班とも比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉や調理用具の安全と衛生に留意した取り扱い方ができる。</li> <li>・それぞれの食材の調理に対する影響について理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点に応じたハンバーグの調理法について収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。</li> </ul>	
1	<p>○実習を振り返り、材料のはたらきを考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの工夫がどのような結果になったのか、他の班とも比較しながら相互評価を行う。</li> <li>・加えた材料がハンバーグに与えた影響や実際に調理してみたの感想や今後改善していきたいことなどを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に表現することができる。</li> <li>・他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価、改善することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。</li> </ul>

## 5 本時の指導計画

### (1) 本時のねらい

・【観点】 知識・技能

「ハンバーグの調理」の基礎的知識と技術の習得を通して生活と技術との関わりについて考えを深めよう。

・【観点】 思考・判断・表現力

考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に表現しよう。

・【観点】 主体的に学習に取り組む態度

ハンバーグの自己の課題を解決し、これからの生活を展望して食生活を工夫し創造しよう。

### (2) 本時の展開



# 特別支援学級 11・12・13組 自立活動 学習指導案

期 日 令和6年11月7日(木) 5校時  
生徒数 16名(男子8名 女子8名)  
授業者 佐々木 翔大(T1)  
小内 真由美(T2)  
北井 里沙(T3)

## 1 主題名 「Skill up challenge ～様々な課題に挑戦しよう!～」

### 2 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

本学級には、知的障害特別支援学級(11・12・13組)として16名(3年生7名、2年生5名、1年生4名)の生徒が在籍している。学習に対して意欲的であり、できると感じた課題や活動には自分から取り組もうとするが、少しでも難しいと感じた課題や活動では、すぐに諦めてしまうことや取り組もうとしないことがある。難しいと感じたことに挑戦して達成感を味わった経験が少ない生徒も多く、小さなことから達成していく経験を積ませ、できることを増やして自信をつけていってほしいとの思いから、本主題を設定した。

#### (2) 主題について

本主題では、①全体課題 ②個別課題 ③選択課題の3種類の学習を行う。全体課題は、様々な体の動きを経験することを目的とする。個別課題は、課題に繰り返し取り組むことでできるようになっていく実感を持たせ、自信をつけることを目的とする。選択課題は、初級編～達人編までの様々な課題に取り組んでいく中で、自分の得意・苦手を知り自己理解につなげること、課題を達成していくことで主体的に行動しようとする意欲につなげること、自己選択・自己決定の経験を積ませることを目的とする。年間を通して繰り返し指導することで、様々なスキルの定着を図る。

#### (3) 指導・支援について

指導にあたっては、タブレットを活用して生徒が主体的に学習課題に取り組めるようにする。複数の教員で学習をサポートするため、担任以外の教員とのコミュニケーションの場面を多く設けるため、3クラス合同での学習とする。個別で行う学習は教室内、体を動かす学習はオープンスペースを使用するなど活動スペースを分け、集中して課題に取り組めるよう環境を整える。本主題の中で学習した内容を日常生活でも意識することができるよう、各教科や学校生活における指導・支援との関連を図っていく。

### 3 研究主題との関わり

研究主題 学校ICTを活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### 「個別課題・選択課題の場面で主体的にタブレットを活用し、自らの課題に挑戦する(B1)」

「生徒1人1人の特性に応じた個別課題を作成すること」「視覚的に分かりやすい授業にすること」「学習への抵抗感の軽減を図ること」ができたことが、特別支援学級におけるICT活用のメリットである。ICTを活用することによって、従来のプリント中心の学習では限界があった1人1人の特性に応じた課題を作成すること、写真やグラフなどの視覚的に理解を促す教材を提示しやすくなり、学習への理解度が高まった。その結果、プリントが中心の授業より、意欲的に学習を進められるようになった。さらに、筆記をタイピングに置き換えたことで、筆記に抵抗感を示していた生徒の表現方法を増やすことができた。本主題をとおして、ICT機器を活用することで生徒の主体的な学習を促していきたい。

#### 4 生徒の実態

氏名	本時に関わる実態
A	・こだわりが強く、取り組んでいる作業を中々止められない。量を調整することで切り替えられる。
B	・手指の巧緻性に課題があるが、ゆっくり手順を確認しながら行うことで細かな作業ができる。
C	・1日の生活リズムに課題があり、登校日数は少ない。学習には意欲的に取り組むことができる。
D	・順序立てて話すことに課題があるが、話す順番を事前にイメージすることで話すことができる。
E	・自分の気持ちを分かりやすく伝えることに課題があるが、紙に書くことで話すことができる。
F	・テンションが上がると話したいことが伝わらなくなるが、落ち着かせることで話すことができる。
G	・カタカナを読むことに課題があるが、練習して読めるようになりたいという気持ちが高い。
H	・語彙が少ないことで話が伝わらないことがあるが、要点を質問することで話すことができる。
I	・要求をはっきり話すことに課題があるが、好きなことであれば伝えられるようになってきた。
J	・友達の名前をあまり覚えられず、出来事を話すことが難しい。「誰が？どこで？何をした？」と質問をしながら聞くことで、伝えることをイメージすることができる。
K	・話がまとまらなくなってしまうことが課題だが、話す前に整理することで話すことができる。
L	・短期記憶が弱く、持ってくる物や行動を忘れてしまうことがある。文字情報で示すことで、覚えていられることが多い。
M	・伝えたいことが伝わらないことがあるが、質問をしていくことで話すことができる。
N	・活動の切り替えが課題だが、タイマーを使うことで少しずつ切り替えができるようになってきた。
O	・話があちこちに飛んでしまうことがあるが、事前に話すことを決めることで話すことができる。
P	・困ったときに1人で固まってしまうことがあるが、肯定的な声をかけていくことで行動ができる。

#### 5 目標

- ・様々な課題に挑戦し、個別の目標を達成することができる。

#### 6 指導計画

過程	授業目標	授業時数
1	レディネステストを実施し、自分の課題を知る。	1
2	全体課題・個別課題・選択課題に取り組むことができる。	本時18 / 33
3	学期の取り組みを振り返り、自己理解を深めることができる。	1

※学期ごとに1～3を繰り返す。

#### 7 本時の指導計画

##### (1) 本時のねらい

氏名	目 標
A	・タイマーを使い、好きな活動→苦手な活動の切り替えをすることができる。
B	・ゆっくり丁寧に、すずらんテープを3つ編みで編むことができる。
C	・学校を休んでいた日の1日の振り返りをプリントに書くことができる。
D	・「交流級の授業で学んだこと」を順序立てて、伝えることができる。
E	・自分に関する質問をスライドにまとめて、人に話すことができる。
F	・ゆっくり落ち着いた口調で、担任の先生と会話をすることができる。
G	・記憶力トレーニングかカタカナの読み書きのどちらかを選んで、取り組むことができる。
H	・「デイサービスでしたこと」をテーマに、教員と会話をすることができる。



I	・「ぼくは〇〇をしたいです」と自分の要求をはっきり伝えることができる。
J	・写真を見て、友達の名前を使いながら「どこで？誰が？何をした？」の順で話すことができる。
K	・伝えたいことを端的に伝えながら、教員と会話することができる。
L	・言葉の違いをよく聞きながら（見ながら）、指定された物を持って帰ることができる。
M	・時間内に机・ロッカーの整理整頓と、教員との会話することができる。
N	・タイマーを使い、好きな活動⇔苦手な活動の切り替えをすることができる。
O	・伝えたいことを自分で決めて伝えることができる。
P	・困ったときに自分から教員や級友に声をかけて、助けを求めることができる。

(2) 本時の展開

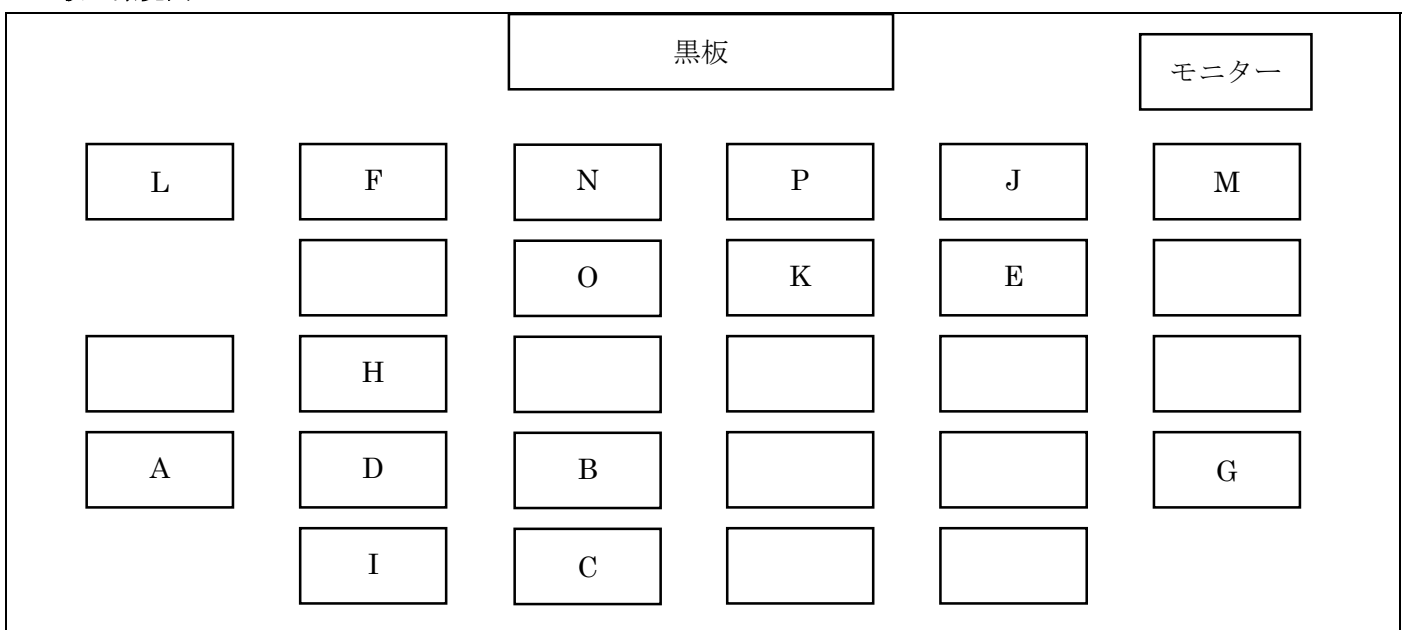
配時	学習活動	指導上の留意点（※指導の手立て *評価の観点）	備考
導入 5分	1 挨拶をする。 2 本時の目標・授業の約束を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・号令係の号令で、元気な声で挨拶をする。</li> <li>・本時の目標・授業の約束を、モニターを使って確認する。</li> <li>※はっきりと話せるように、言葉がけをする。</li> </ul> <p>◇ICT活用場面1</p> <p>「目標・授業の約束をモニターに表示し、授業の見通しを持たせる（A1）」</p>	
	課題 様々な課題に挑戦し、個別の目標を達成しよう！		
展開 38分	3 全体課題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の全体課題「全員で体操」に取り組む。</li> <li>※生徒から見える位置で、見本を見せる（T1・T2・T3）。</li> </ul> <p>◇ICT活用場面2</p> <p>「全体課題をモニターに表示し、一斉に体操に取り組む（A1）」</p>	
	4 個別課題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別課題に必要な物を準備して、課題に取り組む。教室の物を使う場合は、許可を取ってから借りる。</li> <li>※13組の生徒に対して、個別の指導・支援をする（T1）。</li> <li>※11組の生徒に対して、個別の指導・支援をする（T2）。</li> <li>※12組の生徒に対して、個別の指導・支援をする（T3）。</li> </ul> <p>◇ICT活用場面3</p> <p>「タブレットを使用した課題に取り組み、個別の目標を達成する（B1）」</p>	個別課題シート
	5 個別課題の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>*個別課題の取り組み状況を見て、個別に達成度を評価する。</li> </ul>	
	6 選択課題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組む課題を決めて、選択課題に取り組む。</li> <li>・課題に取り組むとき、チェックをしてもらうときに自分からコミュニケーションが取れるように言葉がけをする。</li> <li>※教室内で学習編・生活編のサポートをする（T1）（T2）。</li> <li>※オープンスペースで運動編のサポートをする（T3）。</li> <li>※生徒Lに対して、課題を選択できるよう支援をする（T1）。</li> <li>※生徒Gに対して、課題を選択できるよう支援をする（T2）。</li> </ul> <p>◇ICT活用場面4</p> <p>「タブレットを使用した課題に対して、主体的に取り組む（B1）」</p>	選択課題シート

まとめ 7分	まとめ 様々な課題に挑戦し、個別の目標を達成することができたか。		
	7 振り返りを記入する。	・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。 ※本時の学習を振り返ることができるように、学習内容や頑張っていたことを伝える（T1・T2・T3）。	自己評価 カード
	8 振り返りを発表する。	・「発表お願いします」と声をかけて、振り返りを発表する。	
	9 教師の話聞く。	・本時の取り組みを評価し、次時以降の意欲につなげる。	
	10 挨拶をする。	・号令係の号令で、元気な声で挨拶をする。	

## 8 評価

氏名	評 価
A	・タイマーを使い、好きな活動→苦手な活動の切り替えをすることができたか。
B	・ゆっくり丁寧に、すずらんテープを3つ編みで編むことができたか。
C	・学校を休んでいた日の1日の振り返りをプリントに書くことができたか。
D	・「交流級の授業で学んだこと」を順序立てて、伝えることができたか。
E	・自分に関する質問をスライドにまとめて、人に話すことができたか。
F	・ゆっくり落ち着いた口調で、担任の先生と会話をすることができたか。
G	・記憶力トレーニングかカタカナの読み書きのどちらかを選んで、取り組むことができたか。
H	・「デイサービスでしたこと」をテーマに、教員と会話をすることができたか。
I	・「ぼくは〇〇をしたいです」と自分の要求をはっきり伝えることができたか。
J	・写真を見て、友達の名前を使いながら「どこで？誰が？何をした？」の順で話すことができたか。
K	・伝えたいことを端的に伝えながら、教員と会話をすることができたか。
L	・言葉の違いをよく聞きながら（見ながら）、指定された物を持ってこることができたか。
M	・時間内に机・ロッカーの整理整頓と、教員との会話をすることができたか。
N	・タイマーを使い、好きな活動→苦手な活動の切り替えをすることができたか。
O	・伝えたいことを自分で決めて伝えることができたか。
P	・困ったときに自分から教員に声をかけて、助けを求めることができたか。

## 9 教室環境図



※空席は自閉症・情緒障害学級の生徒

※7月に実施した校内プレ授業の概略です。

令和6年度 学校研究発表会 プレ授業

- 1 訪問形態 全教科（特支含む）による公開授業並びに指導・助言
- 2 訪問期日 令和6年7月11日（木）4、5、6校時
- 3 当日の日程
 

朝の会	8:30～8:35				
午前中	8:45～9:30	(第1校時)	45分授業		
	9:40～10:25	(第2校時)	45分授業		
	10:35～11:20	(第3校時)	45分授業		
公開授業	11:30～12:20	(第4校時)	50分授業		
給食	12:20～12:55				
帰りの会	12:55～13:20	※終わり次第昼休み			
公開授業	13:20～14:10	(第5校時)			
公開授業	14:20～15:10	(第6校時)			
全体会	15:25～15:45	特活室			
分科会	15:45～16:20	各教室			
- 4 指導者
 

《朝霞第三小学校 松本校長》  
 《朝霞市教育委員会 手島主幹》  
 《朝霞市教育委員会 上野指導主事》
- 5 全体会 会場 特活室 司会 教頭
 

① あいさつ		校長			
② 指導講評		松本校長、手島主幹、上野指導主事			
- 6 分科会 会場 各教科で設定
  - ① プレ授業を受けて研究協議会
  - ② 適宜指導者の先生が巡回し、指導

公開授業  
4校時

教科	授業者	場所	参観者	分科会会場
国語	清水 悠太	教室 2-5	上野指導主事	2-7 (2F)
数学	齋藤 雄哉	教室 3-5	上野指導主事	2-5 (2F)
特別支援	川嶋 航	10組	上野指導主事	12組 (2F)

5校時

教科	授業者	場所	参観者	分科会会場
理科	猪股 若菜	第二理科室(2-4)	上野指導主事	2-6 (2F)
音楽	菊田 茉優	第二音楽室	手島主幹	2-4 (2F)
体育	安田 光貴	体育館(3-1,2,3)	松本校長	特活室 (2F)

6校時

教科	授業者	場所	参観者	分科会会場
英語	浅見 真充	教室 1-2	上野指導主事	2-2 (1F)
技術	安達 正晃	技術室(1-1)	上野指導主事	2-8 (2F)
社会	神崎 士龍	教室 2-8	松本校長	2-1 (1F)
美術	雁部 真白	第二美術室(3-2)	松本校長	2-3 (1F)

## 第2学年5組普通科学習指導案

期 日 令和6年7月11日（木）4校時

生徒数 37名

授業者 清水 悠太

1 単元名 読書への招待②『坊っちゃん』

2 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

- ・本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考え方を広げたり深めたりする読書に生かしている。【知識・技能】
- ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。【思考力・判断力・表現力】

(2) 本時の研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

### ICT 活用場面 1

参考資料を大型モニターに提示する。(A1)

近代作品に興味を持たせるために、作品の映画や漫画の画像を効率よく紹介できる。

### ICT 活用場面 2

調べたことを班ごとにホワイトボードアプリでまとめ、Teams の投稿機能を使って学級全体に共有する。(C2)

他の班員と共有することで、生徒が一人では気づけなかった作品の良さに気づける。

また、Teams にアップすることで黒板に書かせたりするよりも、効率よく全体と共有でき、授業後いつでも簡単に確認できる。

(3) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT 活用場面 ●評価基準【観点】
導入 3分	(1) 本時の課題の確認 ・学習課題に対して疑問を持たせる。	◇ICT 活用場面 1 大型モニターを活用し、参考資料を提示する。(A1) ○授業者が事前に作成した他の近代作品の魅力をまとめたのを提示し、授業の見通しをもたせる。
	課題 『坊っちゃん』は、なぜ現代まで多くの人を魅了してきたのだろうか。	
展開 7分  15分	(2) 個人活動 ・教科書の本文から「主人公」「あらすじ」「表現」の三つの視点から『坊っちゃん』の魅力について考える。  (3) 班活動 ・三つの視点について考えたことを班でホワイトボードアプリにまとめ、Teams を使って学級全体で共有する。	○班の中で考える視点を分担させる。 ※六人班の場合は各視点二人ずつ。 ○なるべく自分の知識や経験などを関連付けて書かせる。  ◇ICT 活用場面 2 ホワイトボードアプリで班員の意見をまとめ、Teams の投稿機能を使って全体に共有することで、本時の学習課題に対する理解を深める。(C2)
15分	(4) 発表 ・班でまとめたのを全体に発表する。	○共感したことや良いと思った意見をワークシートにメモするように指示する。
終末 10分	(4) 本時のまとめ ・ワークシートに「本時で学んだこと」を書く。	●『坊っちゃん』の魅力について多様な視点から考えることができ、他の人の意見や、自分の知識と経験とを関連付けて作品に対する理解を深めている。【思考・判断・表現】

## 第2学年8組社会科学学習指導案

期 日 令和6年7月11日（木）6校時

生徒数 38名

授業者 神崎 士龍

### 1 単元名 江戸幕府の成立と支配の仕組み

### 2 本時の指導計画

#### (1) 本時のねらい

- 江戸幕府の全国支配の仕組みについて、資料の読み取りや協同的な学習を通して考察し、その過程や結果を適切に自分の言葉で表現する。【思考力・判断力・表現力等】

#### (2) 本時の研究主題との関わり

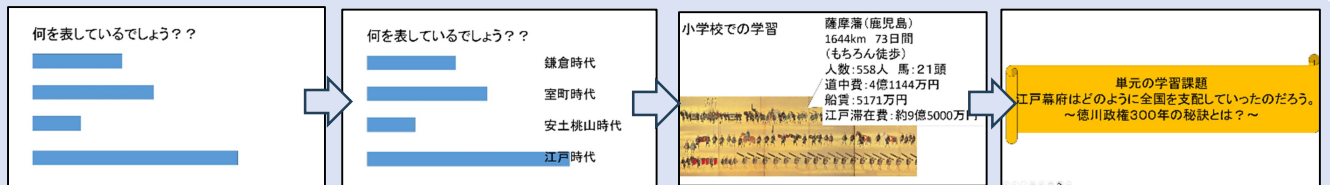
研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT 活用場面 1

大型モニターとプレゼンテーションソフトで導入教材を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。

(A1)

生徒の興味関心が沸くような本時の学習事項に関わる教材を提示し、本時の学習への意欲付けをし、学習課題を確認する。視覚資料等を手軽に用意しやすく、生徒にも見やすい。

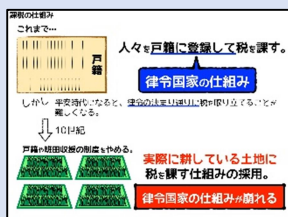


#### ICT 活用場面 2

OneDrive の中に教員が用意した資料を活用した、知識構成型ジグソー法の手法を取り入れた学習活動。(C2)

かつてジグソー法の手法を取り入れた学習をする際は紙媒体の資料を活用して行っていたが、クラウド上に資料を保存することで、印刷が不要。また、タブレット端末上で資料の伝達・共有を行ったことで、ICT 機器を活用したプレゼンテーション能力の向上、生徒同士のコミュニケーション活性化が期待できると考える。

#### OneDrive に共有する資料の一例



#### エキスパート活動

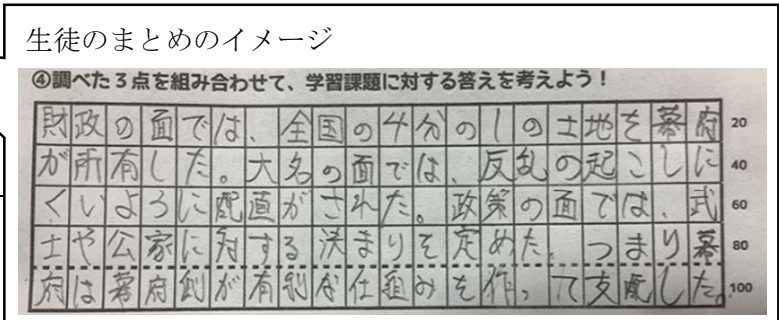
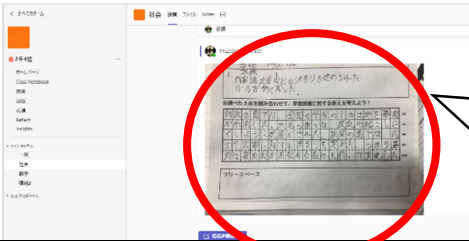


#### ジグソー活動



(3) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点   ◇ICT 活用場面   ●評価基準【観点】
導入 分	<p>(1)本時の課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に対する自分の考えを記述する。</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 1</p> <p>大型モニターとプレゼンテーションソフトで導入教材を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)</p> <p>○「大名行列」など小学校での学習事項も想起させ、学習課題に対する興味関心を引き立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>課題 江戸幕府は、どのように全国を支配したのだろうか？</p> </div>
展開 分	<p>(2) エキスパート活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①大名の配置②武家諸法度③財政の3種類の資料のうち一つを担当し読み取れることや分かることを記入する。</li> <li>・グループごとにエキスパート活動の内容について意見を交換・共有し、自身の資料の内容を深め合う。</li> </ul> <p>(3)ジグソー活動（3～4人班）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート活動での情報を発表し合い、それぞれの視点・資料から分かったことを共有する。</li> <li>・ジグソー活動を通して分かったこと、本時の課題に対する考えをまとめる。</li> </ul> <p>(4)クロストーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー活動を通して考えた学習課題に対するまとめを発表し、Teamsに投稿して意見を全体共有する。</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 2</p> <p>OneDriveの中に教員が用意した資料を活用した、知識構成型ジグソー法の手法を取り入れた学習活動。(C2)</p> <p>エキスパート学習での読み取り資料、ジグソー活動でのプレゼン資料として活用する。</p> <p>○タブレットの拡大機能などを活用させながら、他者に伝わる発表をさせる。</p> <p>○資料を写すのではなく、他者の発表を聞いて、それを自分の言葉で記入するように指導する。</p> <p>◇ICT 活用場面 3</p> <p>クロストークの活動の際、Teamsの投稿機能を使い、模範となる生徒のまとめを全体で共有し、本時の学習課題に対する理解を深める。(C1)</p> <p>●江戸幕府の全国支配の仕組みについて、資料の読み取りや協同的な学習を通して考察し、その過程や結果を適切に自分の言葉で表現している。【思考・判断・表現】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生徒のまとめのイメージ</p> </div>
終末 5分	<p>(5)本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの軌跡（単元の振り返りシート）に本時の振り返りを記入する。</li> </ul>	



### 第3学年5組数学科学習指導案

期 日 令和6年7月11日(木) 4校時

生徒数 男子 19名 女子 18名 計 37名

授業者 教諭 斎藤 雄哉

1 単元名 2次方程式の利用

2 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

・いろいろな2次方程式を、適当な方法で解くことができる。【知識・技能】

(2) 本時の研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

ICT 活用場面 1

大型モニターとデジタル教科書で導入教材を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)

ICT 活用場面 2

PowerPoint を使い、課題解決するために思考のシミュレーションを行う (B3)

ICT 活用場面 3

Apple クラスルームを用いて、学級全体に解法を提示する (C1)



(3) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点    ◇ICT 活用場面    ●評価基準【観点】
導入 5分	<p>(1)本時の課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を理解する</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 1</p> <p>大型モニターとデジタル教科書で導入教材を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)</p>
	<p>縦が11m, 横が10mの長方形の土地に、縦と横に同じ幅の通路をつくり、残りを畑にします。 畑の面積を90m<sup>2</sup>にするには、通路の幅を何mにすればよいでしょうか。</p>	
展開 分	<p>(2) 個別学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の問題を図で示す。</li> </ul> <p>(3)グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの考えをもとに、グループで意見交換し、解答を求める</li> </ul> <p>(4)全体学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で答え合わせを行う</li> </ul> <p>(5)発展学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で類題を作成する。</li> </ul> <p>予想される反応</p> <p>「道を2本にする」</p> <p>「道が斜めになる」</p>	<p>◇ICT 活用場面 2</p> <p>PowerPoint を使い、課題解決するために思考のシミュレーションを行う (B3)</p> <p>○わからない生徒には、できる生徒が指導するようにする。</p> <p>◇ICT 活用場面 3</p> <p>Apple クラブルームを用いて、学級全体に解法を提示する (C1)</p> <p>○立式が複数考えられるので、その意図を大事にする。</p> <p>●いろいろな2次方程式を、適当な方法で解くことができる。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>○因数分解で解けない問題は、平方完成や解の公式で解くように支援する。</p>
終末 5分	<p>(6)本時のまとめ</p> <p>本日、学んだことを班の中で共有する。</p>	<p>○自分が学んだことを班員に説明し、共有させる。</p>

## 第2学年4組理科学習指導案

期 日 令和6年7月11日(木) 4校時  
生徒数 男子20名 女子18名 計38名  
授業者 猪股 若菜

### 1 単元名 生物のからだのつくりとはたらき

### 2 本時の指導計画

#### (1) 本時のねらい

- 植物における吸水と蒸散の関係について、資料の読み取りや協同的な学習を通して考察し、自分の言葉で適切に表現する。 【思考・判断・表現】

#### (2) 本時の研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT 活用場面 1

大型モニターとプレゼンテーションソフトで、既習事項を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)

写真や動画を用いて本時の学習事項に関わる教材を提示し、本時の学習への興味関心を引き立てる。

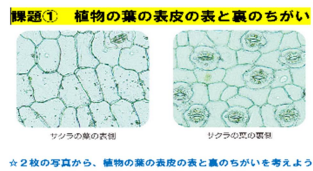


#### ICT 活用場面 2

teams の中に教員が用意した資料を活用した智識構成型ジグソー法の手法を取り入れた学習活動。(C2)

タブレット端末上で資料の伝達・共有を行うことで、ICT 機器を活用したプレゼンテーション能力の向上や生徒同士のコミュニケーションの活性化が期待できる。

OneDrive に共有する資料の一例



ジグソー活動の様子



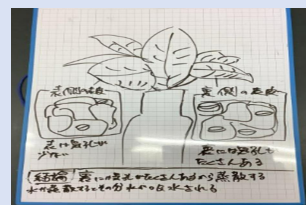
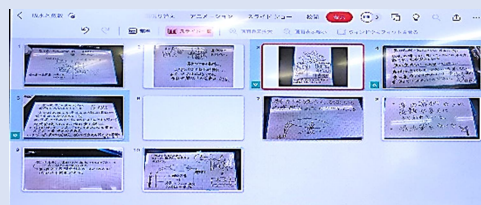
わかったことを班でまとめる様子



#### ICT 活用場面 3

クロストークの活動の際、PowerPoint を用いて、各グループのまとめを全体で共有し、科学的な見方・考え方にせまる。(C1)

クロストーク



(3) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT 活用場面 ●評価基準【観点】
<p>導入 10分</p>	<p>(1)既習事項の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吸水…植物が水を吸い上げること。</li> <li>・蒸散…根から吸い上げられた水が、葉から水蒸気となって出ていくこと。</li> </ul> <p>(2)本時の課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題 植物の吸水と蒸散はどのような関係があるのだろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対する自分の考えをワークシートに記述する。</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 1</p> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>大型モニターとプレゼンテーションソフトで、既習事項を提示し、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)</p> </div> <p>○根から吸い上げられた水はその後どうなるのかを、小学校での学習事項も動画を見ながら想起させ、学習課題に対する興味関心を引き立てる。</p>
<p>展開 35分</p>	<p>(3)エキスパート活動（3～4人班）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①植物の葉の表皮の表と裏のちがい</li> <li>②気孔の役割</li> <li>③植物の部分による吸水量のちがい</li> <li>①～③の小課題の資料のうち、1つを担当しわかることを記入する。</li> <li>・グループごとにエキスパート活動の内容について意見を交換および共有し、自身の資料の内容を深め合う。</li> </ul> <p>(4)ジグソー活動（3～4人班）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート活動での情報を発表し合い、それぞれの視点・資料からわかったことを共有する。</li> <li>・ジグソー活動を通してわかったこと、本時の課題に対する考えをまとめる。</li> </ul> <p>(5)クロストーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー活動を通して考えた学習課題に対するまとめをタブレットで写真に撮り、撮った写真を PowerPoint のテンプレートに載せて、考えを全体で共有する。</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 2</p> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>OneDrive の中に教員が用意した資料を活用した智識構成型ジグソー法の手法を取り入れた学習活動。(C2)</p> <p>エキスパート学習での読み取り資料、ジグソー活動でのプレゼン資料として活用する。</p> </div> <p>○資料を写すのではなく、他者の考えを聞いて、それを自分の言葉で記入するように指導する。</p> <p>○自分の担当した小課題の考察結果を他の班員にわかりやすく伝えるように指導する。</p> <p>○他の意見を取り入れ、自分の考えと関連付けることで、協働して本時の課題を解決するように促す。</p> <p>◇ICT 活用場面 2</p> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>クロストークの活動の際、PowerPoint を用いて、各グループのまとめを全体で共有し、科学的な見方・考え方にせまる。(C1)</p> </div> <p>●吸水と蒸散の関係について、資料の読み取りや協同的な学習を通して考察し、自分の言葉で適切に表現している。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p>
<p>終末 5分</p>	<p>(6)本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに、本時の振り返りを記入する。</li> </ul>	<p>○授業前と授業後の考えを比較させ、吸水と蒸散の関係を考えさせる。</p>

# 第1学年2組英語科学習指導案

期 日 令和6年7月11日(木) 5校時  
生徒数 男子19名 女子19名 計38名  
授業者 浅見 真充

Christopher Jenkinson

## 1 単元名

Grammar for Communication 1 「be 動詞と一般動詞」

## 2 本時の指導計画

### (1) 本時のねらい

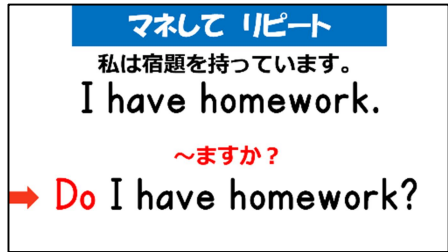
- 目上の人や初対面の人について情報を得るために、たずねたい質問内容を考え、be 動詞や一般動詞を用いて質問している。【思考・判断・表現】

### (2) 本時の研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT 活用場面 1

大型モニターとプレゼンテーションソフトを用いて視覚的に帯学習の際の指示を行い、生徒の思考のヒントとなるようにする。(A1)



パターンプラクティスを行う際、口頭のみでは生徒にとって分かりづらい場合がある。英文変形の指示を出す際に視覚情報も提示することで語順整序の手助けとなり、テンポ良く帯学習としての既習事項復習を進めることができる。

目上の人・初対面の人に英語で話しかけるときは、どう言えば良いだろう？

教科書の本文の表現や、巻末資料を参考にしてみよう。

#### ICT 活用場面 2

iPad を用いて、班ごとに word の文章を共同編集しながら、先生に質問したいことを考える。(C1)

順	質問者 (姓前の名前)	セリフ・先生への質問 (英文で)	先生の答え ※ 質問者以外がメモする
1			
2			
3			
4			

生活班になり、教室にいる教員に質問したい内容を班で考え、実際にインタビューをする。班で1つの Word ファイルを共同編集することで、「聞きたい内容」と「英語でどう聞けばよいか」等について、お互いにアイデアを出し合いながら話し合いを進めることができる。

(3) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点    ◇ICT 活用場面    ●評価基準【観点】
導入 10分	<p>(1) 帯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スライドを見ながら、be 動詞／一般動詞を用いた肯定文を口頭で疑問文に言い換える。</li> <li>・ ペア単位で疑問文→答えの文を口頭練習する。</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 1</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #d4edda; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>大型モニターとプレゼンテーションソフトを用いて視覚的に帯学習の際の指示を行い、生徒の思考のヒントとなるようにする。(A1)</p> </div> <p>○ 正しい語の選択・正しい語順に意識を払わせるだけでなく、英語らしく発音することに注意させる。</p>
展開 35分	<p>(2) グループ活動「先生への■個の質問！」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題： 目上の人・初対面の人に、失礼のないように質問しよう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活班を作り、各々が各班に割り振られた Word ファイルを開く。</li> <li>・ 既習表現や教科書に載っている表現をもとに、班で教員への質問を考える。</li> <li>・ 各班で教室内の教員のところに行き、班で考えた質問をたずねる。教員の答えをメモする。</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 2</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #fff3cd; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>iPad を用いて、班ごとに word の文章を共同編集しながら、先生に質問したいことを考える。(C1)</p> </div> <p>○ それぞれの質問を誰がたずねるか決め、なるべく全員が質問できるようにする。教員が答えた際には、質問者以外の班員がメモを取る。</p> <p>● 目上の人や初対面の人について情報を得るために、たずねたい質問内容を考え、be 動詞や一般動詞を用いて質問している。【思考・判断・表現】</p>
終末 5分	<p>(3) 自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習した内容を振り返り、自己評価シートを記入する。</li> </ul>	<p>○ 授業内で気付いたこと、新たに分かったこと、疑問点などを記入させる。</p>

# 第1学年6組 音楽科学習指導案

期 日 令和6年7月11日(木) 第5校時  
生徒数 男子20名 女子19名 計39名  
授業者 菊田 茉優

1 題材名 アルトリコーダーを演奏しよう。

2 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

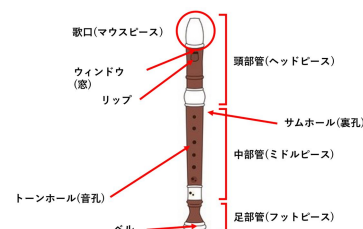
- ・アルトリコーダーの演奏をペアで撮影し合い、お互いの演奏を分析し、その過程での新しい発見を通して、より良い演奏の仕方を考える。【思考力・判断力・表現力等】

(2) 本時の研究主題との関わり

研究主題 学校ICTを活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

## ICT 活用場面1

大型モニターとパワーポイントを使い、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)



前時の復習を口頭のみで行うと分かりづらい場合がある。クイズ形式で、視覚的に情報も取り入れながら行うことで、よりわかりやすくなる。

## ICT 活用場面2

ペアで演奏動画を撮影し合い、演奏の分析を行う。(C3)

カメラの動画機能を使い、ペアで演奏動画を撮影する。お互いの演奏を聴き、タンギングの仕方や姿勢、指の動かし方、音の長さを分析する。できなかった部分を改善し、良い演奏ができるよう考えさせる。客観的に自分の演奏を聴くことによって色々な発見ができる。



(3) 本時の展開

時	○学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT 活用場面 ●評価規準【観点】
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ストレッチ・発声練習</li> <li>○前時の復習</li> <li>・リコーダーについてパワーポイントを使って確認する。</li> <li>○本時の課題の確認</li> </ul>	<p>◇ICT 活用場面 1</p> <p>大型モニターとパワーポイントを使い、生徒の学習意欲を喚起する。(A1)</p> <p>○構造や構え方、姿勢について改めて確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>お互いの演奏を分析し、より良い演奏をしよう！</p> </div>
展開 (45分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音階の復習（ドレミファソ）</li> <li>○「喜びの歌」を演奏。</li> <li>・ピアノの伴奏に合わせながら演奏する。</li> <li>○「かっこう」の練習 (個人練習→ペア練習)</li> <li>・お互いに動画を撮り合い、指の動かし方やタンギングの仕方などの課題を見つける。</li> <li>・課題克服のための練習</li> <li>・もう一度動画を撮り、1回目と比較してみる。</li> <li>・ペアで合わせ</li> <li>○最後に全体で合わせ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運指に気をつけながら演奏できるようにする。</li> <li>○伴奏に合わせ、速度が速くなっても奏法は変えないように注意させる。</li> <li>◇ICT 活用場面 2</li> <li>ペアで演奏動画を撮影し合い、演奏の分析を行う。(C3)</li> <li>○お互いに演奏を分析し、できなかった部分を明確にワークシートに記入をさせる。お互いの演奏を分析し合うように適宜声掛けを行う。</li> <li>●アルトリコーダーの演奏をペアで撮影し合い、お互いの演奏を分析し、その過程での新しい発見を通して、より良い演奏の仕方を考えている。 【思考力・判断力・表現力等】</li> <li>○構え方や姿勢に気をつけ、2パートの重なりを感じ取りながら演奏させる。</li> </ul>
終末 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のまとめを行う。(5分)</li> <li>・本時のまとめと自己評価表を記入する。</li> <li>・次時の学習内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の内容を簡潔にまとめる。</li> <li>○次回の学習内容について触れておく。</li> </ul>

### 3 学年 2 組美術科学習指導案

期日 令和 6 年 7 月 1 1 日 (木) 6 校時  
 生徒数 3 6 名  
 授業者 雁部 真白

1 単元名 1 5 歳の存在証明

2 本時の授業計画

(1)本時のねらい

・ 作品を鑑賞して、作品の造形的なよさを感じ取り作者の心情や意図と造形的な工夫などについて考えを深める。(思考力・判断力・表現力等)

(2)本時の研究主題との関わり

#### ICT 活用場面 1

##### Ipad と power point を活用した作品概要の作成。

いままでの鑑賞活動では、作品説明を冊状に切ったものなどに記入し、鑑賞者はそれを読んでから作者の心情やこだわりを確認していた。

power point に作品画像を取り込み、直接矢印などで提示して作品説明を書きこむことで、視覚的に作品説明を行うことができると考える。

#### ICT 活用場面 2

##### OneDrive/Teams での課題提出

作品提出時に、上記で使用したデータをそのまま提出することができる。

また、One Drive に共有することで、他クラスの作品や同じクラスの生徒の作品を見ることができる。

(3)本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT 活用場面 ●評価規準【観点】
導入 5分	(1)本時の課題の確認	○鑑賞時の注意を再確認する。  目標 作者の人生を感じ取り、心情や考えを読み取り鑑賞をする
展開 3分 5分	(2)鑑賞用資料の作成 Power point に作品の画像を取り込み、見てほしい場所や工夫した場所に注釈を入れる。 5分	ICT 活用場面 1 Ipad と power point を活用した作品概要の作成。 Power point に作品の画像を取り込み、見てほしい場所や工夫した場所に注釈を入れ、スクリーンショットする。 そのまま鑑賞時に提示し、作品概要として活用する。  ○細かい描写などは拡大した画像を添付し、より伝わりやすく提示で



	<p>(3)鑑賞活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品とタブレット画面をひらいたまま机に展示し、鑑賞をし合う。</li> <li>・作品の造形や作者の心情に注目して作品についての感想を記入する。</li> </ul> <p>10分</p> <p>・よかった作品について、前に出て発表する。</p> <p>5分</p> <p>(4)感想記入</p> <p>題材のテーマに沿って、鑑賞を通して感じたこと、これからの自分の作品に生かせることなどをまとめとして記入する。5分</p>	<p>きるように作成させる。</p> <p><b>ICT 活用場面 2</b></p> <p><b>Ipad と power point を活用した作品概要を見ての鑑賞活動。</b></p> <p>タブレットに表示された作品説明と実際の作品を見ながら 本時の学習目標に沿うように鑑賞活動を行う。</p> <p>○「すごいと思った」「上手だった」などの簡単な感想にならないように、学習目標や作品制作にあたっての確認を行う。</p> <p>○具体的な説明を入れ、どこに良さを感じたのかを言語化するよう指導する。</p> <p>●作品の造形的なよさを感じ取り作者の心情や意図と造形的な工夫などについて考えている。【思考力・判断力・表現力】</p> <p><b>ICT 活用場面 3</b></p> <p><b>提出された作品をスクリーンに映し出す。</b></p> <p>画面に映った作品を指さしながら、作品についての説明を行う。</p> <p>○自分自身と向き合うことから主題を見出すことができたか、自分らしさや生命感をどこに反映したかなど、目標を意識して作品制作ができたかを確認する。</p>
<p>ま と め 1 0 分</p>	<p>(5)まとめ</p> <p>作品の提出</p> <p>10分</p>	<p><b>ICT 活用場面</b></p> <p><b>OneDrive/Teams での課題提出。</b></p> <p>Teams/onedrive へ課題提出をしてもらう。 見切れなかった作品などはドライブ上で確認する。</p> <p>○感想用紙の回収を行い、次回の授業確認を行う。</p>

### 第3学年1, 2, 3組保健体育科学習指導案

期 日 令和6年7月11日(木) 5校時

生徒数 男子66名 女子0名 計66名

授業者 安田 光貴

#### 1 単元名

「器械運動」(マット運動)

#### 2 本時の指導計画

##### (1) 本時のねらい

- ・ 【観点】分析から課題を設定し、自分に合った練習方法を選んで練習しよう。(思考力・判断力・表現力等)

##### (2) 本時の研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

#### ICT 活用場面 1

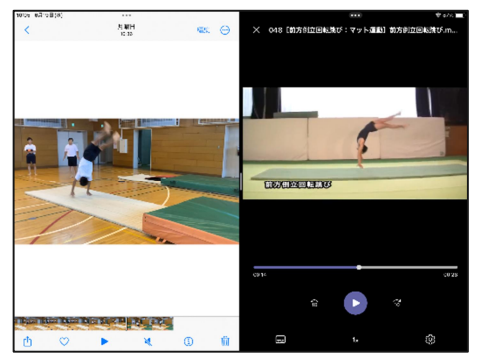
自身の演技を撮影し、手本動画と二画面に並べ、演技の分析を図る。分析から課題を抽出し工夫した練習の選択を行う。

(写真1) Teams 上に模範動画をアップさせ生徒が常に見られる環境ある。



(写真1)

(写真2) 視覚的に自身の演技を観察し、課題の明確化を図り、適切な課題解決方法を見付けることができる。



(写真2)

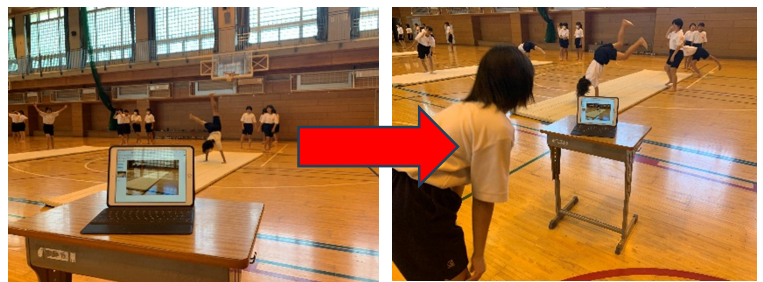
《メリット》自己の課題が視覚的に明確化される。

《デメリット》活動時間の確保が課題。

#### ICT 活用場面 2

タイムシフトカメラ(遅延カメラ)を活用し、演技を毎回映像としてフィードバックさせる。

遅延する時間を設定し、演技した後すぐに映像を確認する。視覚的に課題を明確化させ、反復練習できる。



演技 →

課題の確認

《メリット》撮影者が不要。リアルタイムでフィードバックできる。

《デメリット》録画機能が無いため十分な分析ができない。

(3) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT 活用場面 ●評価基準【観点】															
導入 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備</li> <li>・ストレッチ 1 1 種</li> <li>・慣れの運動 手押し車→前転、補助倒立→前転</li> <li>・基本技 自身が安定して行える技を選択する</li> </ul> <p>(1)本時の課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整列、挨拶、健康観察</li> <li>・ねらいの確認、本時の説明</li> </ul>	<p>○協力して安全に行うように声をかける。 ○場所の安全を確認しながら正確に行わせる。 ○本時の課題に直接関係している動作であることを意識させながら行わせる。 ○自身の技能段階に応じた技を確実に選択できるように声をかける。</p> <p>○重点となる点を確認しながら、本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題 分析から課題を設定し、自分に合った練習方法を選んで練習しよう</p> </div>															
展開 分	<p>(2) 課題解決学習</p> <p>場の設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ステージ</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 25%; text-align: center;">目標 達成</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">目標 達成</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">倒立前転・後転</td> <td style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">倒立前転・後転</td> <td style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 50px; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">前方倒立回転とび エバーマット</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">伸膝系 マット段差</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">前方倒立回転とび エバーマット</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">伸膝系 ロイター板</td> <td></td> </tr> </table> </div> <p>撮影①→分析→課題の抽出→ 練習の選択→撮影②</p>		目標 達成	目標 達成	倒立前転・後転			倒立前転・後転			前方倒立回転とび エバーマット	伸膝系 マット段差		前方倒立回転とび エバーマット	伸膝系 ロイター板		<p>○</p> <p>◇ICT 活用場面 1</p> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>①挑戦する演技を動画で撮影 ②teams から模範演技の動画と自身の動画を二画面で並べて観察 ③teams 上もしくは教科書を使って練習方法を選択</p> </div> <p>●評価基準（思考力・判断力・表現力等） 自身の演技の観察から課題を明確に抽出し、合理的な練習方法を選択することができる。</p> <p>◇ICT 活用場面 2</p> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>タイムシフトカメラ（遅延カメラ）を使って演技を確認させる</p> </div>
	目標 達成	目標 達成															
倒立前転・後転																	
倒立前転・後転																	
前方倒立回転とび エバーマット	伸膝系 マット段差																
前方倒立回転とび エバーマット	伸膝系 ロイター板																
終末 分	<p>(4)本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整理運動、健康観察</li> <li>・動画を見る</li> <li>・振り返り</li> <li>・あいさつ</li> </ul>	<p>○体調の変化や怪我の有無を慎重に確認する。 ○動画から本時の成果を確認させ次回の課題を設定させる。 ○学習カードに成果、次回への課題を記入させる。</p>															

## 第1学年1組 技術・家庭科 技術分野 学習指導案

期 日 : 令和6年7月11日(木) 6校時

生徒数 : 39名

授業者 : 安達正晃

### 1 単元名 「製作のための技能(木材)」

### 2 本時の指導計画

#### (1) 本時のねらい

前時までに小型ペンスタンドの製作を通して、工具を使用した部品加工を体験し、出来上がった作品に対する個人のふりかえりを実施している。本時では、小型ペンスタンドの製作で得られた各工具の使い方の経験や反省をグループで共有し、さらにクラス発表の活動を行う。この活動で加工の技術の知識を共有して製作の技能を高め、今後のマルチラックの製作の実習での、次作品への製作意欲を高めることをねらいとする。あわせて本過程を通して、材料と加工の技術の関心を深め、理解を高めることを目的とする。

#### (2) 本時の研究主題との関わり

研究主題：学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

本校の生徒は、小学校での PowerPoint による発表資料の製作や発表の経験が豊富で、ICT を取り入れた学習活動は、常に高い意欲を持って取り組むことができ、また、基本的な IT リテラシーは十分に身につけている。したがって、技術分野ではさらに踏み込み、「ICT は学びの支援ツール」という位置づけて、デジタルメディアによる作品の自己評価、表現技法の向上、グループ内の情報共有の容易さ、コミュニケーション・コラボレーションなどを体験、実践させ、学習活動の活性化を促す。また、今後学習する、「D 情報の技術」の橋渡しとしていく。

#### ICT 活用場面 1

各工程での工具の使い方を中心に、PowerPoint の共同編集による相互の意見交換。  
(C2：協働での意見交換)

各自の作品の自己評価から、各工程での工具の使い方の技能を振り返りと、使い方のアドバイスなど情報共有をする。製作過程の写真を残すことにより、視覚的に工具の使い方についての評価が手軽にできる。

#### ICT 活用場面 2

各班での、PowerPoint を活用した発表。  
(C1：発表や話し合い)

他グループの発表を見ることによって、より多角的な視点で飲み方考え方、新たな気づきの場とし、各自の工具の使い方についての技能を深めさせる。

#### ICT 活用場面 3

マルチラックのイメージ図から、工具の使い方の考えを深めさせる。  
(B3：思考を深める学習)

本時の授業で学んだことを踏まえて、今後のマルチラックの製作の実習へ向けての、各自の取り組み目標について確認する。

### (3) 前時の主な展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT活用場面 ●評価基準【観点】
前時	・小型ペンスタンドの製作の、個人でのふりかえりとまとめをする。	<p>◇ICT 活用場面</p> <p>PowerPoint による、製作した作品の写真を用いた小型ペンスタンド製作のふりかえり。 (B4：表現・製作)</p> <p>○各工程（けがき・切断・けずり・穴あけ・くぎ打ち）の写真から、うまくできたこと、できなかったことの観点で、振り返りとまとめをさせる。</p>

### (4) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT活用場面 ●評価基準【観点】
導入 5分	(1) 本時の課題の確認	<p>○製品を上手に仕上げるためには、正しい工具の使い方が重要であることを想起させ、課題に対する興味関心を引き立てる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">課題：各工程での工具の使い方を確認しよう</div>		
展開① 20分	<p>(2) グループでの共有活動 ・各自の各工程（けがき・切断・けずり・穴あけ・くぎ打ち）の写真を参考に意見を交換・共有し、工具の使い方について注意点を確認しあう。</p> <p>(3) グループ発表のまとめ 5つの工程のうちの一つ選択し、クラスで発表する準備をする。一つの工程に偏らないよう、教師が適宜割りふる。</p>	<p>○うまくいかなかったことを写真から確認させ、その結果については、工具の使い方から、原因を考えさせる。さらに、正しい使い方の再確認をさせる。</p> <p>◇ICT 活用場面 I</p> <p>各工程での工具の使い方についての、PowerPoint の共同編集による相互の意見交換。 (C2：協働での意見交換)</p>

<p>展開② 20分</p>	<p>(4) 発表 ・ Teams にグループのまとめを投稿して、まとめをクラス全体で共有する。</p>	<p>●正しい工具の使い方の理解を通して、木材の加工の技術について、理解している。【知識・技能】【思考・判断】</p> <p>○工程順に発表していく。グループで発表がされなかった工具の使い方については、発表グループ外から発言させ、補足する。</p> <p>◇ICT 活用場面 2</p> <p>各班での、PowerPoint を活用した発表。 (C1：発表や話し合い)</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>(5) 本時のまとめ ・本時で学んだ、各工程での工具の使い方の振り返りと、今後のマルチラックの製作における各自の目標を考える。</p>	<p>○次時に製作するマルチラックのイメージ図などを見せ、今後の活動意欲を高める。</p> <p>◇ICT 活用場面 3</p> <p>マルチラックのイメージ図から、工具の使い方の考えを深めさせる。 (B3：思考を深める学習)</p>

特別支援学級 10組 自立活動 学習指導案

期日 令和6年7月11日(木) 4校時

生徒数 男子6名 女子0名 計6名

授業者 川嶋 航 (T1)

宮崎 能暉 (T2)

1 単元名 「Skill Up Challenge ～様々な課題に挑戦しよう～」

2 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

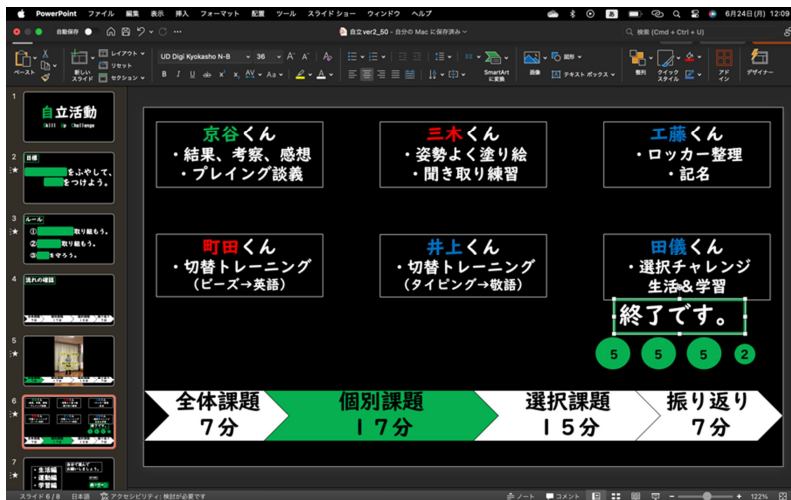
- ・自分で課題を選び、取り組むことができる
- ・自分からコミュニケーションを取ることができる

(2) 本時の研究主題との関わり

研究主題 学校 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む生徒の育成

ICT 活用場面 1

大型モニターとプレゼンテーションソフトで時間と授業の流れを提示し、生徒が見通しを持って活動に取り組めるようにする。(A1)



活動内容と流れが常に確認できるようにし、残り時間が視覚的にわかるようにすることで、見通しを持ちやすくなることを期待できる。

ICT 活用場面 2

AirDrop を用いて生徒教員間で視覚教材などをやりとりし、各生徒の実態に応じた学習ができるようにする。(B1・B3)



Keynote や PDF、動画による教材を用いることで、紙媒体では難しい視覚トレーニングをはじめとした多面的な学習を期待できる。

(3) 本時の展開

時	学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◇ICT 活用場面 ●評価基準【観点】
導入 5分	1 挨拶をする。 2 本時の目標・授業の約束を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・号令係の号令で、元気な声で挨拶をする。</li> <li>・本時の目標・授業の約束を、スクリーンを使って確認する。</li> </ul> ○はっきりと目標・約束を話すことができるように、言葉がけをする。
展開 38分	3 全体課題に取り組む。  4 個別課題に取り組む。  5 個別課題の評価 ・担任の先生のところへ行き、学習した内容を伝える。 ・スタンプを貰う。  6 選択課題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の全体課題「コグトレ体操」に取り組む。</li> </ul> <p>◇ICT 活用場面 1</p> <p>大型モニターとプレゼンテーションソフトで時間と授業の流れを提示し、生徒が見通しを持って活動に取り組めるようにする。(A1)</p> <p>○個別課題に必要な物を準備して、課題に取り組む。教室の物を使う場合は、許可を取ってから借りる。</p> <p>◇ICT 活用場面 2</p> <p>AirDrop を用いて生徒教員間で視覚教材などをやりとりし、各生徒の実態に応じた学習ができるようにする。(B1・B3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「お願いします」と一言言う、スタンプを押しやすい向きにして出すことを意識できるように言葉がけをする。</li> </ul> ○生徒の取り組みを評価し、肯定的な言葉がけをする。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組む課題を決めて、選択課題に取り組む。</li> <li>・課題を貰うとき、チェックをしてもらうときに自分からコミュニケーションが取れるように言葉がけをする。</li> </ul> ○教室内で学習編・生活編のサポートをする (T1)。 ○オープンスペースで運動編のサポートをする (T2)。 ●自分で課題を選び、取り組むことができる ●自分からコミュニケーションを取ることができる
終末 7分	7 振り返りを記入する。  8 振り返りを発表する。  9 教師の話を聞く。  10 挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価カードに本時の振り返りを記入する。</li> </ul> ○本時の学習を振り返ることができるように、学習内容や頑張っていたことを伝える (T1・T2)。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の先生に対して、振り返りの内容を発表する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の取り組みを評価し、次時以降の意欲につなげる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・号令係の号令で、元気な声で挨拶をする。</li> </ul>